

07.10.2004

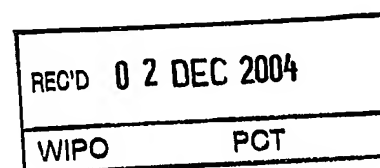
日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日  
Date of Application: 2 0 0 3 年 1 0 月 2 0 日

出 願 番 号  
Application Number: 特 願 2 0 0 3 - 3 5 8 7 2 3  
[ST. 10/C]: [ J P 2 0 0 3 - 3 5 8 7 2 3 ]



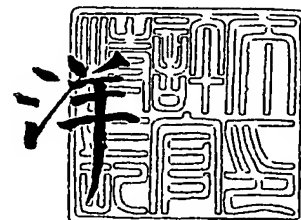
出 願 人  
Applicant(s): 株式会社コスメック


PRIORITY DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH  
RULE 17.1(a) OR (b)

2 0 0 4 年 1 1 月 1 9 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小 川





【書類名】 特許願  
【整理番号】 KP-258  
【提出日】 平成15年10月20日  
【あて先】 特許庁長官殿  
【国際特許分類】 B23Q 3/06  
【発明者】  
    【住所又は居所】 兵庫県神戸市西区室谷2丁目1番2号 株式会社コスメック内  
    【氏名】 米澤 慶多朗  
【発明者】  
    【住所又は居所】 兵庫県神戸市西区室谷2丁目1番2号 株式会社コスメック内  
    【氏名】 春名 陽介  
【特許出願人】  
    【識別番号】 391003989  
    【氏名又は名称】 株式会社コスメック  
【代理人】  
    【識別番号】 100089196  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 梶 良之  
【選任した代理人】  
    【識別番号】 100104226  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 須原 誠  
【選任した代理人】  
    【識別番号】 100118784  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 桂川 直己  
【手数料の表示】  
    【予納台帳番号】 014731  
    【納付金額】 21,000円  
【提出物件の目録】  
    【物件名】 特許請求の範囲 1  
    【物件名】 明細書 1  
    【物件名】 図面 1  
    【物件名】 要約書 1  
    【包括委任状番号】 0307389

**【書類名】 特許請求の範囲****【請求項 1】**

第 2 ブロック (2) に形成した位置決め孔 (5) に挿入されるプラグ部材 (12) を第 1 ブロック (1) から突出させ、

上記プラグ部材 (12) を挟んで対面する複数のスライド部材 (61・61) を、その対面方向にほぼ直交する第 1 径方向 (D1) へ移動可能な状態で上記プラグ部材 (12) に連結し、

上記スライド部材 (61・61) の外側に、第 1 押圧部材 (15) を、拡張及び縮径可能に且つ軸心方向へ所定範囲内で移動可能に配置し、

上記スライド部材 (61・61) の外側であって前記第 1 押圧部材 (15) の内側に、第 2 押圧部材 (19) を、拡張及び縮径可能に且つ軸心方向へ所定範囲内で移動可能に配置し、

前記第 1 押圧部材 (15) 又は前記第 2 押圧部材 (19) を駆動手段 (D) によって基端方向へ駆動することによって、上記スライド部材 (61・61) が前記第 1 径方向 (D1) とは異なる第 2 径方向 (D2) へ前記第 1 押圧部材 (15) を拡張させ、これにより、前記プラグ部材 (12) に対して上記スライド部材 (61・61) を前記の第 1 径方向 (D1) へ移動させる、

ことを特徴とする位置決め装置。

**【請求項 2】**

請求項 1 に記載の位置決め装置であって、

前記第 2 押圧部材 (19) には傾斜外面 (13) を形成し、

前記第 1 押圧部材 (15) には、前記傾斜外面 (13) にテーパ係合可能な傾斜内面 (17) を形成し、

前記プラグ部材 (12) 内に駆動部材 (21) を軸心方向へ移動可能に挿入し、この駆動部材 (21) を前記第 1 押圧部材 (15) 又は第 2 押圧部材 (19) に連結し、

上記駆動部材 (21) を介して前記第 1 押圧部材 (15) 又は第 2 押圧部材 (19) を基端方向へロック移動させることで、前記テーパ係合によって前記第 1 押圧部材 (15) を前記の第 2 径方向 (D2) へ拡張させて当該第 1 押圧部材 (15) を前記位置決め孔 (5) の内周面に密着させ、

上記駆動部材 (21) を介して前記第 1 押圧部材 (15) 又は第 2 押圧部材 (19) を先端方向へリリース移動させることで、前記第 1 押圧部材 (15) の前記拡張を解除して前記の密着を解除する、

ことを特徴とする位置決め装置。

**【請求項 3】**

請求項 1 又は請求項 2 に記載の位置決め装置であって、前記第 1 押圧部材 (15) 又は前記第 2 押圧部材 (19) を先端方向へ進出させる進出手段 (69) を備えることを特徴とする位置決め装置。

**【請求項 4】**

第 2 ブロック (2) に形成した位置決め孔 (5) に挿入されるプラグ部材 (12) を第 1 ブロック (1) から突出させ、

上記プラグ部材 (12) を挟んで対面する複数のスライド部材 (61・61) を、その対面方向にほぼ直交する第 1 径方向 (D1) へ移動可能な状態かつ軸心方向に所定のストロークだけ移動可能な状態で上記プラグ部材 (12) に連結し、

上記スライド部材 (61・61) の外側に、押圧部材 (15) を、拡張及び縮径可能に且つ軸心方向に移動自在に配置し、

前記押圧部材 (15) を駆動手段 (D) によって基端方向へ駆動することによって、上記スライド部材 (61・61) が、前記第 1 径方向 (D1) とは異なる第 2 径方向 (D2) へ前記押圧部材 (15) を拡張させ、これにより、前記プラグ部材 (12) に対して上記スライド部材 (61・61) を前記の第 1 径方向 (D1) へ移動させる、

ことを特徴とする位置決め装置。

**【請求項 5】**

請求項 4 に記載の位置決め装置であって、

前記スライド部材 (61・61) には傾斜外面 (13) を形成し、

前記押圧部材 (15) には、前記傾斜外面 (13) にテーパ係合可能な傾斜内面 (17) を形成し、

前記プラグ部材 (12) 内に駆動部材 (21) を軸心方向へ移動可能に挿入し、この駆動部材 (21) を前記押圧部材 (15) に連結し、

上記駆動部材 (21) を介して前記押圧部材 (15) を基端方向へロック移動させることで、前記テーパ係合によって前記押圧部材 (15) を前記の第 2 径方向 (D2) へ拡張させて当該押圧部材 (15) を前記位置決め孔 (5) の内周面に密着させ、

上記駆動部材 (21) を介して前記押圧部材 (15) を先端方向へリリース移動させることで、前記押圧部材 (15) の前記拡張を解除して前記の密着を解除する、ことを特徴とする位置決め装置。

**【請求項 6】**

請求項 4 又は請求項 5 に記載の位置決め装置であって、前記スライド部材 (61・61) を先端方向へ進出させる進出手段 (69) を備えることを特徴とする位置決め装置。

**【請求項 7】**

請求項 1 から請求項 6 までの何れか一項に記載の位置決め装置であって、前記第 1 押圧部材または押圧部材 (15) は環状に形成されていることを特徴とする位置決め装置。

**【請求項 8】**

請求項 7 に記載の位置決め装置であって、前記第 1 押圧部材または押圧部材 (15) にはスリット (51) が形成され、このスリット (51) によって前記第 1 押圧部材または押圧部材 (15) が拡張方向及び縮径方向に変形可能に構成したことを特徴とする位置決め装置。

**【請求項 9】**

請求項 1 から請求項 3 までの何れか一項に記載の位置決め装置であって、前記第 2 押圧部材 (19) は環状に形成されていることを特徴とする位置決め装置。

**【請求項 10】**

請求項 9 に記載の位置決め装置であって、前記第 2 押圧部材 (19) にはスリット (57) が形成され、このスリット (57) によって前記第 2 押圧部材 (19) が拡張方向及び縮径方向に変形可能に構成したことを特徴とする位置決め装置。

**【請求項 11】**

請求項 9 又は請求項 10 に記載の位置決め装置であって、前記第 2 押圧部材 (19) と前記プラグ部材 (12) との間に、前記第 1 径方向 (D1) の隙間 (A・A) が形成されていることを特徴とする位置決め装置。

**【請求項 12】**

請求項 1 から請求項 6 までの何れか一項に記載の位置決め装置であって、前記第 1 押圧部材または押圧部材 (15) はブロック状に形成されており、前記スライド部材 (61・61) を挟んで対面するように複数配置されることを特徴とする位置決め装置。

**【請求項 13】**

請求項 12 に記載の位置決め装置であって、

それぞれの前記スライド部材 (61) の外面には、前記第 1 押圧部材または押圧部材 (15) の内面に接触する 2 つの当たり部 (61a・61a) と、これら 2 つの当たり部 (61a・61a) の間に配置される逃げ部 (61b) とが周方向に並んで形成され、

前記逃げ部 (61b) と前記第 1 押圧部材または押圧部材 (15) との間に隙間 (C) が形成されている、

ことを特徴とする位置決め装置。

**【請求項 14】**

請求項 12 又は請求項 13 に記載の位置決め装置であって、

それぞれの前記第 1 押圧部材または押圧部材 (15) の外面には、2 つの当たり部 (1

5a・15a)と、これら2つの当たり部(15a・15a)の間に配置される逃げ部(15b)とが周方向に並んで形成され、

前記当たり部(15a・15a)が前記位置決め孔(5)の内周面に接触したときに、前記逃げ部(15b)と前記位置決め孔(5)の内周面との間に隙間(B)が形成される

、  
ことを特徴とする位置決め装置。

【請求項15】

請求項12から請求項14までの何れか一項に記載の位置決め装置であって、

前記プラグ部材(12)の外周に円筒状の連結部材(81)を配置し、

その連結部材(81)に前記第1押圧部材または押圧部材(15)を前記の第2径方向(D2)へ移動可能に支持した、

ことを特徴とする位置決め装置。

【請求項16】

請求項12から請求項15までの何れか一項に記載の位置決め装置であって、前記第1押圧部材または押圧部材(15)に縮径方向の力を作用させる戻し部材(84)が備えられていることを特徴とする位置決め装置。

【請求項17】

請求項1から請求項16までの何れか一項に記載の位置決め装置であって、前記駆動手段(D)が、前記第1押圧部材又は押圧部材(15)を前記位置決め孔(5)の内周面に密着させた状態で当該第1押圧部材又は押圧部材(15)を介して前記第2ブロック(2)を基端方向へ移動させ、当該第2ブロック(2)の被支持面(2a)を前記第1ブロック(1)の支持面(1a)に押圧する、ことを特徴とする位置決め装置。

【請求項18】

請求項1から請求項17までの何れか一項に記載の位置決め装置を備えるクランピングシステム。

【請求項19】

複数の位置決め装置を備え、そのうちの少なくとも一つが請求項1から請求項17までの何れか一項に記載の位置決め装置であることを特徴とするクランピングシステム。

## 【書類名】明細書

【発明の名称】位置決め装置及びそれを備えるクランピングシステム

## 【技術分野】

## 【0001】

この発明は、工作機械のテーブル等の第1ブロックにワークパレット等の第2ブロックを位置決めする装置に関する。また、このような位置決め装置を備えるクランピングシステムに関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

この種の位置決め装置は、一般的には、可動部材（第2ブロック）の被支持面に開口させた円形の位置決め孔を基準部材（第1ブロック）の支持面から突出させたプラグに嵌合させるようにしてある（例えば特許文献1を参照）。

【特許文献1】特開昭57-27640号公報

## 【発明の開示】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0003】

上記の従来技術では、上記の位置決め孔とプラグとの両者をスムーズに嵌合させるため上記の両者間に所定の嵌合隙間を設ける必要がある。このため、その嵌合隙間によって位置決め精度が低下する。

## 【0004】

本発明は以下の事情に鑑みてされたものであり、その目的は、高精度かつ自動的に位置決めできる位置決め装置を提供することにある。

## 【課題を解決するための手段及び効果】

## 【0005】

本発明の解決しようとする課題は以上の如くであり、次にこの課題を解決するための手段とその効果を説明する。

## 【0006】

## (第1の発明)

第1の発明の位置決め装置は、例えば図1～図3、図10、又は図11に示すように、以下のように構成した。

第2ブロック2に形成した位置決め孔5に挿入されるプラグ部材12を第1ブロック1から突出させる。上記プラグ部材12を挟んで対面する複数のスライド部材61・61を、その対面方向にほぼ直交する第1径方向D1へ移動可能な状態で上記プラグ部材12に連結する。上記スライド部材61・61の外側に、第1押圧部材15を、拡張及び縮径可能に且つ軸心方向へ所定範囲内で移動可能に配置する。上記スライド部材61・61の外側であって前記第1押圧部材15の内側に、第2押圧部材19を、拡張及び縮径可能に且つ軸心方向へ所定範囲内で移動可能に配置する。前記第1押圧部材15又は前記第2押圧部材19を駆動手段Dによって基端方向へ駆動することによって、上記スライド部材61・61が前記第1径方向D1とは異なる第2径方向D2へ前記第1押圧部材15を拡張させ、これにより、前記プラグ部材12に対して上記スライド部材61・61を前記の第1径方向D1へ移動させる。

## 【0007】

これによれば、前記位置決め孔5に前記第1押圧部材15を挿入した後にその嵌合隙間G（例えば図3・図4参照）を駆動手段Dによって消失させて位置決めすることができる。従って、前記位置決め孔5に前記第1押圧部材15をスムーズに挿入できることと高精度に位置決めすることとを両立できる。また、前記第2径方向D2においては高精度に位置決めすることが可能であるとともに、前記第1径方向D1においては前記スライド部材61・61がスライドするので、前記位置決め孔5と前記プラグ部材12の位置ズレを許容できる。なお、軸心方向への移動を所定範囲内に設定した前記第1押圧部材15又は前記第2押圧部材19の基端方向への移動が阻止されたときには、前記第1押圧部材15が

前記位置決め孔 5 の内周面を強力に押圧可能になるので、前記第 2 径方向 D 2 の高精度の位置決めが達成される。

#### 【0008】

##### (第 2 の発明)

第 1 の発明においては、例えば図 1 ～図 3、図 10、又は図 11 に示すように、以下のよう構成することが好ましい。

前記第 2 押圧部材 19 には傾斜外面 13 を形成する。前記第 1 押圧部材 15 には、前記傾斜外面 13 にテーパ係合可能な傾斜内面 17 を形成する。前記プラグ部材 12 内に駆動部材 21 を軸心方向へ移動可能に挿入し、この駆動部材 21 を前記第 1 押圧部材 15 又は第 2 押圧部材 19 に連結する。上記駆動部材 21 を介して前記第 1 押圧部材 15 又は第 2 押圧部材 19 を基端方向へロック移動させることで、前記テーパ係合によって前記第 1 押圧部材 15 を前記の第 2 径方向 D 2 へ拡張させて当該第 1 押圧部材 15 を前記位置決め孔 5 の内周面に密着させる。上記駆動部材 21 を介して前記第 1 押圧部材 15 又は第 2 押圧部材 19 を先端方向へリリース移動させることで、前記第 1 押圧部材 15 の前記拡張を解除して前記の密着を解除する。

#### 【0009】

これによれば、前記テーパ係合による拡張力によって、前記第 2 ブロック 2 を前記第 1 ブロック 1 に対し前記第 2 径方向 D 2 に確実かつ強力に位置決めできる。また、駆動部材 21 を駆動して前記第 1 押圧部材 15 又は第 2 押圧部材 19 をロック移動させる際は、当該第 1 押圧部材 15 を介して上記の第 2 ブロック 2 を上記の第 1 ブロック 1 に押圧させることができるので、専用のクランプ手段を省略することも可能である。

#### 【0010】

##### (第 3 の発明)

第 1 または第 2 の発明においては、例えば図 1 ～図 3、図 10、又は図 11 に示すように、以下のように構成することが好ましい。

前記第 1 押圧部材 15 又は前記第 2 押圧部材 19 を先端方向へ進出させる進出手段 69 を備える。

#### 【0011】

これによれば、ロック移動時には、第 1 押圧部材 15 (又は第 2 押圧部材 19) が第 2 押圧部材 19 (又は第 1 押圧部材 15) を基端方向へ移動させようとするが、それに前記進出手段 69 が抗する。従って、前記第 1 押圧部材 15 の拡張をスムーズに行わせることができる。しかも、その拡張によって前記の位置決め孔 5 に密着した上記の第 1 押圧部材 15 を前記の進出手段 69 に抗して基端方向へ移動させることにより、前記の第 2 ブロック 2 を前記の第 1 ブロック 1 に強力にクランプできる。

#### 【0012】

##### (第 4 の発明)

第 4 の発明の位置決め装置は、例えば図 12・図 13、図 14、図 15・図 16、又は図 19 に示すように、以下のように構成した。

第 2 ブロック 2 に形成した位置決め孔 5 に挿入されるプラグ部材 12 を第 1 ブロック 1 から突出させる。上記プラグ部材 12 を挟んで対面する複数のスライド部材 61・61 を、その対面方向にはほぼ直交する第 1 径方向 D 1 へ移動可能な状態かつ軸心方向に所定のストロークだけ移動可能な状態で上記プラグ部材 12 に連結する。上記スライド部材 61・61 の外側に、押圧部材 15 を、拡張及び縮径可能に且つ軸心方向に移動自在に配置する。前記押圧部材 15 を駆動手段 D によって基端方向へ駆動することによって、上記スライド部材 61・61 が、前記第 1 径方向 D 1 とは異なる第 2 径方向 D 2 へ前記押圧部材 15 を拡張させ、これにより、前記プラグ部材 12 に対して上記スライド部材 61・61 を前記の第 1 径方向 D 1 へ移動させる。

#### 【0013】

これによれば、前記位置決め孔 5 に前記押圧部材 15 を挿入した後にその嵌合隙間 G (例えば図 12・図 13 参照) を駆動手段 D によって消失させて位置決めすることができる。

。従って、前記位置決め孔 5 に前記押圧部材 15 をスムーズに挿入できることと高精度に位置決めすることとを両立できる。また、前記第 2 径方向 D 2 においては高精度に位置決めすることが可能であるとともに、前記第 1 径方向 D 1 においては前記スライド部材 61・61 がスライドするので、前記位置決め孔 5 と前記プラグ部材 12 の位置ズレを許容できる。なお、軸心方向への移動を所定ストロークに設定した前記スライド部材 61・61 の基端方向への移動が阻止されたときには、前記押圧部材 15 が前記位置決め孔 5 の内周面を強力に押圧可能になるので、前記第 2 径方向 D 2 の高精度の位置決めが達成される。

#### 【0014】

(第 5 の発明)

第 4 の発明においては、例えば図 12・図 13、図 14、図 15・図 16、又は図 19 に示すように、以下のように構成することが好ましい。

前記スライド部材 61・61 には傾斜外面 13 を形成する。前記押圧部材 15 には、前記傾斜外面 13 にテーパ係合可能な傾斜内面 17 を形成する。前記プラグ部材 12 内に駆動部材 21 を軸心方向へ移動可能に挿入し、この駆動部材 21 を前記押圧部材 15 に連結する。上記駆動部材 21 を介して前記押圧部材 15 を基端方向へロック移動させることで、前記テーパ係合によって前記押圧部材 15 を前記の第 2 径方向 D 2 へ拡張させて当該押圧部材 15 を前記位置決め孔 5 の内周面に密着させる。上記駆動部材 21 を介して前記押圧部材 15 を先端方向へリリース移動させることで、前記押圧部材 15 の前記拡張を解除して前記の密着を解除する。

#### 【0015】

これによれば、前記テーパ係合による拡張力によって、前記第 2 ブロック 2 を前記第 1 ブロック 1 に対し前記第 2 径方向 D 2 に確実かつ強力に位置決めできる。また、駆動部材 21 を駆動して前記押圧部材 15 をロック移動させる際は、当該押圧部材 15 を介して上記の第 2 ブロック 2 を上記の第 1 ブロック 1 に押圧させることができるので、専用のクランプ手段を省略することも可能である。

#### 【0016】

(第 6 の発明)

第 4 又は第 5 の発明においては、例えば図 12・図 13、図 14、図 15・図 16、又は図 19 に示すように、前記スライド部材 61・61 を先端方向へ進出させる進出手段 69 を備えることが好ましい。

#### 【0017】

これによれば、ロック移動時には、押圧部材 15 が前記スライド部材 61・61 を基端方向へ移動させようとするが、それに前記進出手段 69 が抗する。従って、前記押圧部材 15 の拡張をスムーズに行わせることができる。しかも、その拡張によって前記の位置決め孔 5 に密着した上記の押圧部材 15 を前記の進出手段 69 に抗して基端方向へ移動させることにより、前記の第 2 ブロック 2 を前記の第 1 ブロック 1 に強力にクランピングできる。

#### 【0018】

(第 7 の発明)

第 1 から第 6 までの発明においては、例えば図 1～図 3、図 10、図 11、図 12・図 13、又は図 14 に示すように、前記第 1 押圧部材または押圧部材 15 は環状に形成されていることが好ましい。

#### 【0019】

これによれば、前記第 1 押圧部材または押圧部材 15 の内部に異物が侵入しにくい構成とすることができ、その異物に起因する位置決め装置のトラブルを回避できる。

#### 【0020】

(第 8 の発明)

第 7 の発明においては、例えば図 1～図 3、図 10、図 11、図 12・図 13、又は図 14 に示すように、以下のように構成することが好ましい。

前記第 1 押圧部材または押圧部材 15 にはスリット 51 が形成され、このスリット 51



によって前記第 1 押圧部材または押圧部材 15 が拡張方向及び縮径方向に変形可能に構成した。

【0021】

これによれば、前記第 1 押圧部材または押圧部材 15 を拡張方向及び縮径方向に変形可能な簡素な構成が達成される。また、その第 1 押圧部材または押圧部材 15 は、径方向の変形量を大きくできるので、前述の嵌合隙間 G を大きくして前記位置決め孔 5 への差込みをスムーズとできる。

【0022】

(第 9 の発明)

第 1 から第 3 までの発明においては、例えば図 1～3、図 10、又は図 11 に示すように、前記第 2 押圧部材 19 は環状に形成されていることが好ましい。

【0023】

これによれば、前記第 2 押圧部材 19 の内部に異物が侵入しにくい構成とすることができ、その異物に起因する位置決め装置のトラブルを回避できる。

【0024】

(第 10 の発明)

第 9 の発明においては、例えば図 1～図 3、図 10、又は図 11 に示すように、以下のように構成することが好ましい。

前記第 2 押圧部材 19 にはスリット 57 が形成され、このスリット 57 によって前記第 2 押圧部材 19 が拡張方向及び縮径方向に変形可能に構成した。

【0025】

これによれば、前記第 2 押圧部材 19 を拡張方向及び縮径方向に変形可能な簡素な構成が達成される。

【0026】

(第 11 の発明)

第 9 又は第 10 の発明においては、例えば図 1～図 3 に示すように、以下のように構成することが好ましい。

前記第 2 押圧部材 19 と前記プラグ部材 12 との間に、前記第 1 径方向 D1 の隙間 A・A が形成されている。

【0027】

これによれば、前記第 1 押圧部材 15 及び前記第 2 押圧部材 19 が前記第 1 径方向 D1 に自在に移動でき、前記位置決め孔 5 と前記プラグ部材 12 の前記第 1 径方向 D1 の位置ズレに容易に追従させることができる。

【0028】

(第 12 の発明)

第 1 から第 6 までの発明においては、例えば図 15・図 16、又は図 19 に示すように、以下のように構成することが好ましい。

前記第 1 押圧部材または押圧部材 15 はブロック状に形成されており、前記スライド部材 61・61 を挟んで対面するように複数配置される。

【0029】

これによれば、前記第 1 押圧部材または押圧部材 15 は、拡張方向（前記第 2 径方向 D2）に変形するのではなくて単に変位することで、前記位置決め孔 5 の内周面を押圧できる。従って、その第 1 押圧部材または押圧部材 15 は、変位量を大きくできるので、位置決め精度を良好に維持したままで前記位置決め孔 5 に一層スムーズに挿入できる。

【0030】

(第 13 の発明)

第 12 の発明においては、例えば図 18 に示すように、以下のように構成することが好ましい。

それぞれの前記スライド部材 61 の外面には、前記第 1 押圧部材または押圧部材 15 の内面に接触する 2 つの当たり部 61a・61a と、これら 2 つの当たり部 61a・61a

の間に配置される逃げ部 61b とが周方向に並んで形成される。前記逃げ部 61b と前記第 1 押圧部材または押圧部材 15 との間に隙間 C が形成されている。

#### 【0031】

これによれば、それぞれのスライド部材 61 につき 2 つの前記当たり部 61a・61a が前記第 1 押圧部材または押圧部材 15 の内面を押動するのに対して、前記逃げ部 61b においては押動しない構成となる。このため、1 つのスライド部材 61 につき前記当たり部 61a の 2 点で前記第 1 押圧部材または押圧部材 15 の内面に接触し、前述のロック移動時に前記第 1 押圧部材または押圧部材 15 が前記位置決め孔 5 の内周面から受ける反力をその 2 点で安定的に受けることが可能な構成となる。従って、前記位置決め孔 5 と前記プラグ部材 12 との間の前記第 2 径方向 D2 の位置ズレを適切かつ確実に是正することができる。

#### 【0032】

##### (第 14 の発明)

第 12 又は第 13 の発明においては、例えば図 18 に示すように、以下のように構成することが好ましい。

それぞれの前記第 1 押圧部材または押圧部材 15 の外面には、2 つの当たり部 15a・15a と、これら 2 つの当たり部 15a・15a の間に配置される逃げ部 15b とが周方向に並んで形成される。前記当たり部 15a・15a が前記位置決め孔 5 の内周面に接触したときに、前記逃げ部 15b と前記位置決め孔 5 の内周面との間に隙間 B が形成される。

#### 【0033】

これによれば、前記位置決め孔 5 の内径が大きい場合など、当該位置決め孔 5 の内周面に密着するために前記第 1 押圧部材または押圧部材 15 の大きな変位が必要な場合でも、適切に位置決めすることができる。即ち、それぞれの第 1 押圧部材または押圧部材 15 につき 2 つの前記当たり部 15a・15a が前記位置決め孔 5 の内周面を押動するのに対して、前記逃げ部 15b においては押動しない構成となる。このため、1 つの第 1 押圧部材または押圧部材 15 につき前記当たり部 15a の 2 点で拮抗力（前記第 2 径方向 D2 の力）を加え、前記位置決め孔 5 と前記プラグ部材 12 との間の前記第 2 径方向 D2 の位置ズレを適切かつ確実に是正することができる。

#### 【0034】

##### (第 15 の発明)

第 12 から第 14 までの発明においては、例えば図 15・図 16、又は図 19 に示すように、以下のように構成することが好ましい。

前記プラグ部材 12 の外周に円筒状の連結部材 81 を配置する。その連結部材 81 に前記第 1 押圧部材または押圧部材 15 を前記の第 2 径方向 D2 へ移動可能に支持した。

#### 【0035】

これによれば、ブロック状の第 1 押圧部材または押圧部材 15 を支持するための簡素な構成が実現できる。また、前記連結部材 81 を駆動手段 D で駆動することによって、前記第 1 押圧部材または押圧部材 15 をロック移動及びリリース移動させることも容易である。また、連結部材 81 が円筒状であるので、その連結部材 81 内部に異物が侵入しにくい構成とすることができる。

#### 【0036】

##### (第 16 の発明)

第 12 から第 15 までの発明においては、例えば図 15・図 16、又は図 19 に示すように、前記第 1 押圧部材または押圧部材 15 に縮径方向の力を作用させる戻し部材 84 が備えられていることが好ましい。

#### 【0037】

これによれば、ブロック状の前記第 1 押圧部材または押圧部材 15 を非拮抗状態へ容易に戻すことができる。

#### 【0038】

**(第17の発明)**

第1から第16までの発明においては、例えば図2、図10、図11、図12、図14、又は図15に示すように、以下のように構成することが好ましい。

前記駆動手段Dが、前記第1押圧部材または押圧部材15を前記位置決め孔5の内周面に密着させた状態でその第1押圧部材または押圧部材15を介して前記第2ブロック2を基端方向へ移動させ、当該第2ブロック2の被支持面2aを前記第1ブロック1の支持面1aに押圧する。

**【0039】**

これによれば、前記第2ブロック2を前記第1ブロック1に対し、前記の第2径方向D2に位置決めするのに加えて、前記の軸心方向に拘束することも可能な構成とすることができる。

**【0040】****(第18の発明)**

本発明のクランピングシステムは、第1から第17までの発明のクランピング装置を備えて構成した。

**【0041】**

これによれば、前記第1ブロック1と前記第2ブロック2とを着脱する際の作業性が良好で、かつ、位置決めを高精度で行うことができる。

**【0042】****(第19の発明)**

また、本発明のクランピングシステムは、複数の位置決め装置を備え、そのうちの少なくとも一つが第1から第16までの位置決め装置であるように構成した。

**【0043】**

これによれば、前記第1ブロック1と前記第2ブロック2とを着脱する際の作業性が良好で、かつ、位置決めを高精度で行うことができる。また、様々な態様の位置決めを行えるクランピングシステムを提供できる。

**【発明を実施するための最良の形態】****【0044】****[第1実施形態]**

図1～図8は、本発明の第1実施形態を示している。

まず、図1～図3を参照して、本発明の位置決め装置の全体構成を説明する。図1は、位置決め装置のプラグ手段の平面図である。図2は、図1の2-2線断面矢視図である。図3は、図2の3-3線断面矢視図である。

**【0045】**

この実施形態では図2に示すように、工作機械のテーブルTに第1ブロックであるベースプレート1を載置して固定している。第2ブロックであるワークパレット2には、円形の位置決め孔5が貫通状に開口される。この位置決め孔5に対応させて、上記ベースプレート1にプラグ手段6が設けられる。

**【0046】**

上記プラグ手段6の構成を図1～図3を参照して以下に説明する。

図2に示すように、上記ベースプレート1の上面に装着穴8が形成される。この装着穴8には、カットブロック9が精密に位置決めされた状態で圧入嵌合される。このカットブロック9のフランジ9aは、複数本の締付ボルト10（図1）によって上記ベースプレート1に固定される。

**【0047】**

プラグ部材12が上記カットブロック9から上向き（先端方向）に突出される。このプラグ部材12は前記位置決め孔5に差込可能である。前記プラグ部材12の軸心は、前記の装着穴8の軸心と同一になっている。

**【0048】**

前記プラグ部材12の周囲において、複数（本実施形態では、図1に示されるように4

つ) のボス部 1 b が前記カットブロック 9 の前記フランジ 9 a から上向きに突出される。このボス部 1 b の上端面には平坦な支持面 1 a が形成されている。本実施形態の位置決め装置は、このベースプレート 1 側の支持面 1 a に第 2 ブロックとしてのワークパレット 2 の被支持面 2 a を受け止めるとともに、上記ベースプレート 1 に上記ワークパレット 2 を位置決めするように構成している。

【0049】

図 2・図 3 に示すように、上記プラグ部材 1 2 の外周には、径方向に互いに向かい合う一対のスライド外面 6 4・6 4 を形成している。このスライド外面 6 4・6 4 は、前記プラグ部材 1 2 の軸心に平行な鉛直平面に形成している。

【0050】

前記プラグ部材 1 2 の外側には一対のスライド部材 6 1・6 1 が設けられる。このスライド部材 6 1・6 1 は、前記プラグ部材 1 2 を挟んで径方向に対面するように配置される。

【0051】

このスライド部材 6 1・6 1 のそれぞれの内面にはスライド面 6 3・6 3 を形成している。このスライド面 6 3・6 3 は、前記スライド外面 6 4 と同様に、前記プラグ部材 1 2 の軸心に平行な鉛直平面に形成している。前記スライド部材 6 1・6 1 は、そのスライド面 6 3・6 3 が前記プラグ部材 1 2 の前記スライド外面 6 4・6 4 に接触するように配置される。前記スライド部材 6 1・6 1 のそれぞれは、前記スライド面 6 3・6 3 に沿って、図 3 に示す第 1 径方向 D 1 に移動可能である。なお、前記スライド部材 6 1・6 1 のそれぞれの外面は、上下方向にストレートな円弧面（ストレート外面）に形成している。

【0052】

図 2・図 3 に示すように、上記プラグ部材 1 2 の外周で前記スライド部材 6 1・6 1 の外側に、環状の楔部材（第 2 押圧部材） 1 9 が配置される。この楔部材 1 9 の内面は、前記スライド部材 6 1・6 1 の前記ストレート外面に接触している。このストレート外面に対し前記楔部材 1 9 の内面が滑ることで、当該楔部材 1 9 は後述する所定の可動ストローク内で軸心方向に移動可能である。

【0053】

この楔部材 1 9 は図 3 等 に示すようにコレット状に形成される。即ち、前記楔部材 1 9 の周壁 1 9 a には、軸心方向へ延びて上下の両端に開口する一つのスリット 5 7 が設けられる。これにより、上記の周壁 1 9 a の周方向のほぼ全部が拡張方向及び縮径方向へ弾性変形可能となっている。

【0054】

更に、この楔部材 1 9 の外周の全体にわたって傾斜外面 1 3 が設けられている。この傾斜外面 1 3 は、上方（先端方向）へ向かうにつれて上記の軸心へ近づくテーパ状に構成している。

【0055】

なお、前記楔部材 1 9 と前記プラグ部材 1 2 との間には、図 3 に示すように、前記第 1 径方向 D 1 の隙間 A・A が形成されている。

【0056】

前記楔部材 1 9 の外側には、環状のスリーブ部材（第 1 押圧部材） 1 5 が配置される。このスリーブ部材 1 5 も前記楔部材 1 9 と同様にコレット状に形成される（図 3 等）。即ち、前記スリーブ部材 1 5 の周壁 1 5 a には、軸心方向へ延びて上下の両端に開口する一つのスリット 5 1 が設けられる。これにより、上記の周壁 1 5 a の周方向のほぼ全部が拡張方向及び縮径方向へ弾性変形可能となっている。また前記スリーブ部材 1 5 は、それを拡張させる方向の力が解除されたときは、そのスリーブ部材 1 5 自体の有する弾性復元力によって縮径方向へ復帰可能である。

【0057】

前記スリーブ部材 1 5 の内周の全体にわたって傾斜内面 1 7 が形成されている。この傾斜内面 1 7 は、上方（先端方向）へ向かうにつれて上記の軸心へ近づくテーパ状に構成し

ている。前記傾斜内面 17 は、前記楔部材 19 の前記傾斜外面 13 にテーパ係合可能である。

【0058】

前記スリーブ部材 15 の外周の全体にわたって、前記の位置決め孔 5 に密着可能なストレート外面 16 が形成される。

【0059】

前記スリーブ部材 15 において、上記スリット 51 は一つに限定されるものではなく、複数であっても差し支えない。例えば、上記スリット 51 を上記スリーブ部材 15 の上端と下端とに周方向へ交互に開口させることが考えられる。同様に、前記楔部材 19 において、上記スリット 57 は一つに限定されるものではなく、複数であっても差し支えない。

【0060】

前記楔部材 19 には回り止めピン 52 が固定され、径方向に突出する当該回り止めピン 52 の外端が前記スリーブ部材 15 の前記スリット 51 に挿入されている。この結果、前記スリーブ部材 15 の回り止めが行われている。なお、ここでは、上記スリット 51 にゴム等の弾性シール部材（図示せず）を接着または充填などによって装着している。ただし、この弾性シール部材は、位置決め装置の用途によっては省略してよい。

【0061】

上記プラグ部材 12 の軸孔には駆動部材 21 が上下移動可能に挿入される。この駆動部材 21 は図 2 に示すように、前記ブロック 9 の下部に保密封に挿入したピストン 22 と、そのピストン 22 から上向きに突出したピストンロッド 23 と、そのピストンロッド 23 の上部にネジ止めしたボルト 24 と、このボルト 24 によって固定されるキャップ部材 25 と、このキャップ部材 25 と前記ピストンロッド 23 の上端面との間に挟着されるリング 26 とを備える。上記キャップ部材 25 と上記リング 26 との間に前記スリーブ部材 15 の上フランジ 27 が嵌入されている。

【0062】

前記ピストン 22 にはピン 55 が挿入され、このピン 55 は、前記カットブロック 9 に設けた係止孔に係合されている。この結果、前記駆動部材 21 の回り止めが行われている。

【0063】

上記ブロック 9 内に、駆動手段 D を構成するロック手段 31 とリリース手段 32 とが設けられる。上記ロック手段 31 は、上記ピストン 22 の上側に配置したロック用の油圧室（以下「ロック室」）34 と、上記ピストン 22 とによって構成される。また、上記リリース手段 32 は、上記ピストン 22 の下側に形成したリリース用の油圧室（以下「リリース室」）35 と、上記ピストン 22 とによって構成される。

【0064】

前記ロック室 34 は、前記カットブロック 9 の内部に形成された油路 71 を経由して、前記フランジ 9a の下面に形成したロックポート 72 に連通している。また、前記リリース室 35 は前記装着穴 8 の底部に連通している。

【0065】

前記フランジ 9a の下面にはブローポート 73 が設けられる。このブローポート 73 は、前記カットブロック 9 の内部に形成した空気路 74 を経由して、前記プラグ部材 12 の軸孔の内部に連通している。また、前記ピストンロッド 23 の外周面が切り欠かれて縦路 75 を形成し、この縦路 75 が前記空気路 74 に連通している。

【0066】

この構成で前記ブローポート 73 に圧縮空気を供給すると、圧縮空気は前記空気路 74 と前記縦路 75 を経由して、前記プラグ部材 12 の上端面と前記リング 26 との間の空間に導かれ、前記スリット 51 や前記隙間 A 等を通じて外部に噴出される。これにより、前記傾斜外面 13・13 や前記傾斜内面 17 等の各部位をクリーニングすることができる。

【0067】

また図 1 に示すように、前記フランジ 9a の下面には位置決め検出ポート 85 が設けら

れる。この位置決め検出ポート 85 は、前記カットブロック 9 の内部に形成した空気路 86 を経由して、前記ボス部 1b の前記支持面 1a に開口したノズル孔 87 に連通している。

#### 【0068】

この構成で前記位置決め検出ポート 85 に圧縮空気を供給したときに、前記ワークパレット 2 の前記被支持面 2a と前記ベースプレート 1 の前記支持面 1a とが接当していると、前記ノズル孔 87 が前記被支持面 2a によって閉鎖されるので前記位置決め検出ポート 85 の圧力が上昇する。この圧力上昇を図示しない圧力センサで検出することで、前記被支持面 2a と前記支持面 1a とが接当しているか否かを検出することができる。

#### 【0069】

図 2 に示すように前記スリーブ部材 15 の外周面の上部には環状の浅い凹部が形成され、この凹部に環状のカバー部材 53 が嵌着されている。前記カバー部材 53 は周方向に切れ目のない形状に形成されており、前記スリット 51 の上部の外側を覆っている。このカバー部材 53 の上端面は前記キャップ部材 25 の下端面に接している。このカバー部材 53 により、前記スリーブ部材 15 の内部に金属加工の切り粉等の異物が侵入することを回避できている。

#### 【0070】

前記スリーブ部材 15 の上フランジ 27 と前記リング 26 との間には環状の隙間が形成されている。この環状の隙間により、前記スリーブ部材 15 の拡張および縮径方向の変形、及び移動（前記第 1 径方向 D1 の移動）が許容されている。

#### 【0071】

前記楔部材 19 の下側には、進出手段としての皿バネ 69 が配置されている。この皿バネ 69 は、前記楔部材 19 を上方（先端方向）へ進出させる方向の弾発力を作用させる。言い換えれば、この皿バネ 69 は、前記傾斜外面 13 と前記傾斜内面 17 とのテーパ係合を緊密にさせる方向の力を作用させる。

#### 【0072】

なお、前記楔部材 19 の所定量以上の上昇は、前記プラグ部材 12 の先端の外周に環状に形成されているフランジ 70 によって阻止される。こうして、前記楔部材 19 の可動ストロークの上端（先端）側の限界が規定される。

#### 【0073】

また、前記プラグ部材 12 の基端部の外周には環状の突起 58 が形成される。そして、楔部材 19 が下降して前記皿バネ 69 が所定量圧縮されると、当該皿バネ 69 が前記突起 58 に接触して、それ以上の圧縮が阻止されるようになっている。こうして、前記楔部材 19 の前記可動ストロークの下端（基端）側の限界が規定される。

#### 【0074】

上記の位置決め装置の動作を、上述の図 2 と図 3、及び図 4 から図 8 を参照して説明する。

図 4 は、位置決め装置においてプラグ手段 6 を位置決め孔 5 に差し込んだ状態を示す立面断面図である。図 5 は図 4 の 5-5 線断面矢視図である。図 6 は、位置決め装置においてスリーブ部材 15 が拡張して位置決め孔 5 の内周面に密着した状態を示す立面断面図である。図 7 は図 6 の 7-7 線断面矢視図である。図 8 は、ロック状態の立面断面図である。

#### 【0075】

上記の図 2・図 3 に示すリリース状態では、前記ロック室 34 から圧油を排出するとともに、前記リリース室 35 に圧油を供給している。これにより、前記ピストン 22 が前記ピストンロッド 23 を上昇させ、そのピストンロッド 23 が前記ボルト 24 および前記リング 26 を介して前記スリーブ部材 15 を上昇させている。このとき、前記のプラグ部材 12 の上端面と上記リング 26 の下面との間には、接当隙間が形成されている。

#### 【0076】

また、前記楔部材 19 は、前記皿バネ 69 の作用により上昇されて、前記フランジ 70

に接触する位置（前記可動ストロークの進出端の位置）か、又はそれに近い位置で静止している。この状態では、前記楔部材 19 の前記傾斜外面 13 は、前記スリーブ部材 15 の前記傾斜内面 17 に対し、微小の隙間を空けて対面するか又は軽くテーパ係合している。従って、前記スリーブ部材 15 は拡張方向に全く弾性変形していない状態（弾性変形しているにしても、その変形量は微小である状態）となっている。なお、以下、このスリーブ部材 15 の状態を「非拡張状態」と称する。

#### 【0077】

前記ベースプレート 1 に前記ワークパレット 2 を位置決めするときには、まず、図 4 に示すように、上記リリース状態で上記ワークパレット 2 を下降させて、上記スリーブ部材 15 の前記ストレート外面 16 を前記の位置決め孔 5 に挿入する。なお、この差込時には、前記ブローポート 73 に圧縮空気を供給して、前記位置決め孔 5 の内周面等の各部位に付着した異物を吹き飛ばしてクリーニングすることが望ましい。前記スリーブ部材 15 は前述したように非拡張状態であるので、前記位置決め孔 5 に挿入された前記ストレート外面 16 と前記位置決め孔 5 の内周面との間には環状の嵌合隙間 G が形成される。

#### 【0078】

なお、この差込時において、前記位置決め孔 5 の軸心と前記プラグ部材 12 の軸心は一致せず、図 5 に示すように、前記スライド面 63 に平行な第 1 径方向 D1 にも、それに直交する第 2 径方向 D2 にもズレているものとして以下説明する。前記嵌合隙間 G は、上記の軸心ズレの結果、図 5 に示すように偏心状の隙間となっている。

#### 【0079】

次いで、前記リリース室 35 の圧油を排出するとともに、前記ロックポート 72 を介して前記ロック室 34 に圧油を供給する。すると、その圧油供給の初期には、前記ロック室 34 の比較的に低い油圧力によって前記ピストン 22 が前記ボルト 24 および前記リング 26 を介して前記スリーブ部材 15 を下降させる。そのスリーブ部材 15 は前記楔部材 19 を押すが、その押下げに前記皿バネ 69 の弾発力が抗する。この結果、前記スリーブ部材 15 の傾斜内面 17 が前記楔部材 19 の傾斜外面 13 に楔係合していく。これにより、図 6・図 7 に示すように、上記スリーブ部材 15 は、第 2 径方向 D2 へ弾性的に拡張し、前記の位置決め孔 5 の内周面に密着する。この前記スリーブ部材 15 の拡張密着状態では、図 4・図 5 に図示した嵌合隙間 G は消失している。

#### 【0080】

より詳しくいえば、前記スリーブ部材 15 が前記拡張方向の力を前記位置決め孔 5 の内周面に作用させるのは、周方向全体ではなく、前記スライド部材 61・61 に対面する部分のみである。従って、前記密着により、前記プラグ部材 12 に対する前記位置決め孔 5 の位置ズレ（図 5 に図示の位置ズレ）のうち、前記第 2 径方向 D2 の位置ズレは是正される。一方、前記スライド部材 61・61 は前記スライド面 63・63 に沿って前記第 1 径方向 D1 へ移動自在である。このため、前記スリーブ部材 15 は、前記位置決め孔 5 を押圧する際に当該位置決め孔 5 の内周面から受ける反力の前記第 1 径方向 D1 の成分（分力）によって、図 7 に示すように、前記楔部材 19 及び前記スライド部材 61・61 とともに前記第 1 径方向 D1 へある程度移動することができる。従って、前記プラグ部材 12 に対する前記位置決め孔 5 の位置ズレのうち、前記第 1 径方向 D1 の位置ズレは許容される。言い換えれば、前記プラグ手段 6 は、前記スライド部材 61・61 が対面する方向（前記第 2 径方向 D2）においては正確な位置決めを行い、それに垂直な方向（前記第 1 径方向 D1）においては位置ズレを許容できる構成である。

#### 【0081】

引き続き、前記ロック室 34 の圧力が十分高まったときに、上記の図 6 の密着状態のスリーブ部材 15 が前記駆動部材 21 によって強力的に駆動されていく。これにより、そのスリーブ部材 15 が、前記楔部材 19 を介して前記皿バネ 69 を圧縮すると同時に、前記位置決め孔 5 に摩擦摺動しながら下降する。

このため、上記駆動部材 21 が上記スリーブ部材 15 を介して上記ワークパレット 2 を強力的に引き下げ、前記ワークパレット 2 の前記被支持面 2a が前記ベースプレート 1 の前



記支持面 1 a に強力に押圧される。

なお、上記の密着状態のスリーブ部材 15 は、上記の支持面 1 a と被支持面 2 a との間に接当隙間が存在する場合には、まず、その接当隙間を消失させた後で前述の摩擦摺動を行う。

#### 【0082】

そして、図 8 のロック状態に示すように、圧縮された前記皿バネ 69 が前記突起 58 に接当すると、前記楔部材 19 は前記皿バネ 69 を介して前記カットブロック 9 によって受け止められ、当該楔部材 19 のそれ以上の下降（基端方向への移動）が阻止される。このため、前記駆動手段 D によって前記スリーブ部材 15 に加えられる下向きの力は、その殆どが前記傾斜外面 13 及び前記傾斜内面 17 によって当該スリーブ部材 15 の拡張力に変換され、このスリーブ部材 15 は、前記位置決め孔 5 の内周面を前記第 2 径方向 D2 へ強力に押圧する。この結果、前記第 2 径方向 D2 の強力な位置決めが達成される。

#### 【0083】

なお、上記ロック移動時には、前記リング 26 の下面が前記プラグ部材 12 の上端面に接当することにより、上記スリーブ部材 15 の所定量以上の下降が阻止される。

#### 【0084】

上記のロック状態から前記リリース状態へ切り換えるときには、前記ロック室 34 から圧油を排出するとともに前記のリリース室 35 へ圧油を供給すればよい。これにより、前記ボルト 24 及び前記リング 26 によって上記スリーブ部材 15 が上昇して（リリース移動）、そのスリーブ部材 15 が前記楔部材 19 に対するテーパ係合を解除しつつ自己の弾性復元力によって前述の非拡張状態に戻るの、前記ロック状態が解除される。その後、前記ワークパレット 2 を上昇させるのである。

#### 【0085】

本実施形態では以上に説明したとおり、前記スリーブ部材 15 を前記位置決め孔 5 に差し込んだ状態でその嵌合隙間 G（図 4・図 5 を参照）を消失させて位置決めすることができる。従って、前記位置決め孔 5 に前記スリーブ部材 15 を容易かつスムーズに差し込むことができ、それと同時に、位置決め精度も良好である。

#### 【0086】

また、前記スライド部材 61・61 が対面する方向（前記第 2 径方向 D2）においては高精度に位置決めすることが可能であるとともに、前記スライド面 63 と平行な方向（前記第 1 径方向 D1）においては前記位置決め孔 5 と前記プラグ部材 12 の位置ズレを許容できる。

#### 【0087】

更には本実施形態では、前記位置決め孔 5 と前記プラグ部材 12 の前記第 1 径方向 D1 の位置ズレを、前記スライド部材 61・61 が前記スライド面 63 に沿ってスライドすることでスムーズに吸収できる構成である。この効果を、以下、図 9 の構成例と比較対照して具体的に説明する。

#### 【0088】

即ち、前記第 2 径方向 D2 において精密な位置決めを行うとともに、前記第 1 径方向 D1 において位置ズレを許容する構成としては、図 9 のような構成も考えられる。この図 9 は、本願発明者が先に提案した構造であって、前記図 3 に対応する図である。この場合、前記スライド部材 61・61 を設ける代わりに、前記プラグ部材 12 の外周面に前記第 2 径方向 D2 に突出する突出部 91・91 を互いに径方向に対面するよう一体形成している。この突出部 91・91 にはストレート外面 92・92 を形成し、前記楔部材 19 の内周面はこのストレート外面 92・92 に接触している。両突出部 91・91 の間の位置において前記プラグ部材 12 には逃がし溝を形成しており、この結果、前記楔部材 19 と前記プラグ部材 12 との間に前記第 1 径方向 D1 の隙間 A・A が形成される。

#### 【0089】

この図 9 の構成でも、前記スリーブ部材 15 を前記ロック移動させることにより、前記第 2 径方向 D2 においては精密な位置決めを行うとともに、それと垂直な前記第 1 径方向



D1においては前記スリーブ部材15及び前記楔部材19が鎖線のように移動することで位置ズレを許容することが可能である。

【0090】

しかしながら、図9の構成では、前記突出部91・91に対して前記スリーブ部材15及び前記楔部材19が前記第1径方向D1に鎖線のように移動すると、その楔部材19の内周面に対し前記突出部91の前記ストレート外面92が偏当たりとなってしまう。この偏当たりの部分では大きな摩擦が発生するために、前記突出部91・91に対する前記スリーブ部材15及び前記楔部材19の前記第1径方向D1の移動がスムーズに行われない。また、前記スリーブ部材15が前記第1径方向D1に移動すると、前記突出部91の前記ストレート外面92の隅部あるいは前記楔部材19の内周面に無理な力が局所的に加わり易い。特に、位置決めした状態の前記ワークパレット2に前記第2径方向D2の外力が加わると、その偏当たりの部分に過大な力が加わって前記楔部材19の内周面や前記ストレート外面92に圧痕等の損傷が生じるおそれがある。この弊害を防止するには、特殊合金鋼などの高級材料を使用したり、その使用材を適切に硬化処理する必要があるため、製造コストが高くなる。

【0091】

また、上記の偏当たりによる弊害を緩和するためには、前記突出部91・91を細く形成して、その先端面の前記ストレート外面92と前記楔部材19の内周面との間の接触面積を小さくすることが考えられる。しかしこれでは、小さい面積でしか力が伝達されないために、前記スリーブ部材15の前記第2径方向D2の拡張力を大きく確保できない。また、前記スリーブ部材15を介した前記ワークパレット2の引下げ力も十分に確保できない。

【0092】

この点、本実施形態の構成(図7)では、前記第1径方向D1の位置ズレを吸収すべく前記スリーブ部材15が前記第1径方向D1に移動した場合でも、それとともに前記スライド部材61・61も移動するので、当該スライド部材61のストレート外面と前記楔部材19の内周面との間が偏当たりとならない。従って、前記スライド部材61のストレート外面や前記楔部材19の内周面が傷付くこともない。

【0093】

また、本実施形態の構成では、前記スライド部材61のストレート外面と前記楔部材19の内周面との間の接触面積を広く確保した場合でも、前記スリーブ部材15及び前記楔部材19は前記スライド部材61・61とともに前記スライド面63に沿ってスムーズに移動する。従って、前記ロック動作の際は、前記スリーブ部材15及び前記楔部材19は前記第1径方向D1の位置ズレに追従してスムーズにスライド移動し、当該第1径方向D1の位置ズレを円滑に吸収することができる。これは、前記スライド部材61のストレート外面と前記楔部材19の内周面との間の接触面積を大きく確保でき、前記スリーブ部材15が前記位置決め孔5の内周面に作用させる拡張力を大きくできることを意味する。また、前記スリーブ部材15が前記位置決め孔5の内周面に密着した状態で前記ワークパレット2を引き下げる力を大きく確保できることを意味する。

【0094】

加えて本実施形態では、前記楔部材19の基端方向への移動が阻止される図8の状態では、前記スリーブ部材15が前記位置決め孔5の内周面を図6の状態よりも強力に押圧する構成となっている。従って、前記第2径方向D2の高精度の位置決めが達成される。

【0095】

また本実施形態では、前記楔部材19に前記傾斜外面13を形成し、前記スリーブ部材15には前記傾斜内面17を形成している。従って、前記テーパ係合による機械的な拡張力によって前記第2ブロック2を前記第1ブロック1に対し前記第2径方向D2に確実に強力に位置決めできる。また、駆動手段Dにより駆動部材21を駆動して前記スリーブ部材15をロック移動させる際は、当該スリーブ部材15を介して上記の第2ブロック2を上記の第1ブロック1に押圧させることができるので、専用のクランプ手段を省略する

ことも可能である。

【0096】

また、本実施形態では、前記楔部材 19 を先端方向へ進出させる前記皿バネ 69 が備えられている。従って、前記スリーブ部材 15 が基端方向にロック移動する際に、当該スリーブ部材 15 が前記楔部材 19 を基端方向へ移動させようとするが、それに前記皿バネ 69 の弾発力が抗することになる。従って、前記テーパ係合による前記スリーブ部材 15 の拡張をスムーズに行わせることができる。

【0097】

また、本実施形態において前記スリーブ部材 15 は環状に形成されている。従って、切り粉等の異物が前記スリーブ部材 15 内に侵入しにくい構成とすることができている。

【0098】

加えて本実施形態では、前記スリーブ部材 15 には前記スリット 51 が形成されている。そして、このスリット 51 によって前記スリーブ部材 15 が拡張方向及び縮径方向に変形可能に構成されている。従って、当該スリーブ部材 15 を拡張方向および縮径方向に変形可能な簡素な構成が実現される。また、前記スリーブ部材 15 を切れ目なし状に形成する場合に比し、前記スリーブ部材 15 の変形量を大きく確保できる。従って、前述した非拡張状態での前記嵌合隙間 G (図 4・図 5 に図示) の隙間量を大きくできるので、前記ストレート外面 16 を前記位置決め孔 5 に差し込む際の作業性が良好である。

【0099】

更に、本実施形態において前記楔部材 19 は環状に形成されている。従って、切り粉等の異物が前記楔部材 19 内に侵入しにくい構成とすることができている。

【0100】

また、本実施形態では、前記楔部材 19 には前記スリット 57 が形成されている。そして、このスリット 57 によって前記楔部材 19 が拡張方向及び縮径方向に変形可能に構成されている。従って、当該楔部材 19 を拡張方向及び縮径方向に変形可能な簡素な構成が達成される。

【0101】

更には、前記楔部材 19 と前記プラグ部材 12 との間には前記第 1 径方向 D1 の隙間 A・A が形成されている。従って、前記ロック移動の際は、前記スリーブ部材 15 及び前記楔部材 19 は前記第 1 径方向 D1 の位置ズレに追従してスムーズにスライド移動し、当該第 1 径方向 D1 の位置ズレを円滑に吸収することができる。

【0102】

以上に第 1 実施形態を説明したが、この第 1 実施形態は更に以下のように変更できる。

【0103】

(1) 前記の傾斜外面 13 は、前記楔部材 19 の外面に設けることに代えて、当該楔部材 19 の外側に配置した他の部材の外面に設けても良い。また、前記のスライド外面 64 は、前記プラグ部材 12 の外面に設けることに代えて、当該プラグ部材 12 の外側に配置した他の部材の外面に設けても良い。

【0104】

(2) 前記位置決め孔 5 の内周面に密着するための前記スリーブ部材 15 の拡張方向の変形量がそれほど必要ない場合には、前記スリーブ部材 15 にスリット 51 を形成せず、前記スリーブ部材 15 を切れ目のない環状に形成してもよい。また、前記楔部材 19 にスリット 57 を形成せず、前記楔部材 19 を切れ目のない環状に形成してもよい。

【0105】

(3) 一方、前記楔部材 19 は、周方向に複数分割した分割体として構成しても良い。

【0106】

(4) 前記駆動部材 21 は油圧により上下に駆動される構成としているが、それに代えて、例えば圧縮空気を前記ロック室 34 や前記リリース室 35 に供給して駆動する構成であっても良い。また、圧力流体による駆動に限定せず、上方または下方への駆動を例えばバネにより行わせても良い。バネとしては、圧縮コイルバネや、一枚又は積層状の皿バネ

等が考えられる。

【0107】

(5) 前記プラグ手段6を前記位置決め孔5に差し込む方法としては、前記ワークパレット2を下降させることに代えて、前記ベースプレート1を上昇させても良い。また、前記ワークパレット2の下降と前記ベースプレート1の上昇を同時に行わせる構成であっても良い。

【0108】

(6) 前記位置決め孔5は前記ワークパレット2に貫通状に形成されているが、前記位置決め孔5を前記ワークパレット2の下面のみに開口させる形状に形成しても良い。

【0109】

(7) 前記プラグ部材12及び前記位置決め孔5をその軸線が横向きになるように備えて、前記プラグ手段6を前記位置決め孔5に水平方向に差し込む構成としても構わない。斜め方向に差し込む構成であっても勿論構わない。

【0110】

次に、図10から図19を参照して、本発明の位置決め装置についての他の複数の実施形態及び変形例を説明する。これらの別の実施形態においては、上記の第1実施形態の構成部材と同じ部材又は類似する部材に原則として同一の符号を付している。

【0111】

〔第2実施形態〕

図10は、位置決め装置の第2実施形態を示す図であって、図2に対応する図である。

【0112】

この第2実施形態の位置決め装置は、図10に示すように前記皿バネを省略し、その代わり、環状の進出ピストン（進出手段）69を、前記カットブロック9及び前記ピストンロッド23に対し保密封に嵌合している。この進出ピストン69は上下方向（軸心方向）に移動可能である。

【0113】

この進出ピストン69は、前記ロック室34の圧油を受けて上向きに駆動される。ただし、その受圧面積は、前記ピストン22の前記ロック室34側の受圧面積よりも小さい。

【0114】

前記カットブロック9には、複数本の伝動ピン76を上下方向（軸心方向）に移動可能となるように支持している。この伝動ピン76の下端は前記進出ピストン69に接当し、上端は前記楔部材19に接当している。

【0115】

この第2実施形態の位置決め装置の動作が前記第1実施形態と異なる点は、以下のとおりである。

図10のリリース状態では前記リリース室35へ圧油が供給されているので、前記ピストン22が上昇されている。この結果、前記駆動部材21が前記スリーブ部材15を上昇させている。また、前記ピストン22は前記進出ピストン69を押し上げ、その結果、前記伝動ピン76を介して前記楔部材19が上昇されている。この状態では前記スリーブ部材15は前述の非拡張状態となっている。

【0116】

このリリース状態で前記リリース室35の圧油を排出するとともに前記ロック室34へ圧油を供給すると、前記ピストン22が押し下げられ、前記スリーブ部材15が下降する。このスリーブ部材15は前記楔部材19を下降させようとするが、それには、前記進出ピストン69に上向きに作用している油圧力が抗する。この結果、前記スリーブ部材15は、前記楔部材19を押し下げながら当該楔部材19にテーパ係合し、前記第2径方向へ拡張して前記ワークパレット2の前記位置決め孔5の内周面に密着する。

【0117】

更に前記ピストン22が下降して、前記楔部材19が所定の可動ストロークだけ下降すると、前記伝動ピン76が前記フランジ9aの上面から突出しない状態となり、前記楔部

材 19 は前記フランジ 9 a によって直接受け止められる。こうして前記楔部材 19 のそれ以上の下降（基端方向への移動）が阻止され、前記スリーブ部材 15 は前記ワークパレット 2 の前記位置決め孔 5 の内周面を前記第 2 径方向 D 2 へ強力に押圧する。

【0118】

前記進出ピストン 69 は、圧油で駆動されることに代えて、他の圧力流体、例えば圧縮空気等で駆動される構成であっても良い。

【0119】

なお、上記のように圧力流体で駆動される進出ピストン 69 を進出手段として採用する構成は、以降の第 3 実施形態から第 7 実施形態のいずれにおいても適用できる。

【0120】

〔第 3 実施形態〕

図 11 は、位置決め装置の第 3 実施形態を示す図であって、図 4 に対応する図である。

【0121】

この第 3 実施形態は、前記第 1 実施形態に対し、以下に述べる点が異なっている。

図 11 に示すように、前記フランジ 9 a にボス部を形成せず、代わりに、前記プラグ部材 12 の基端部の周囲において前記フランジ 9 a の上面を上向きに環状に突出させ、この環状突出部 1 b の上面を前記支持面 1 a としている。この支持面 1 a には前記ノズル孔 87 が開口されている。

【0122】

前記楔部材（第 2 押圧部材）19 の前記傾斜外面 13 は、下方（基端方向）に向かうに従って前記プラグ部材 12 の軸心に近づくように傾斜させて形成している。これに対応させて、前記スリーブ部材（第 1 押圧部材）15 の前記傾斜内面 17 は、下方（基端方向）に向かうに従って前記プラグ部材 12 の軸心に近づくように傾斜させて形成している。

【0123】

前記キャップ部材 25 と上記リング 26 との間には、前記楔部材 19 の上フランジ 27 が嵌入されている。前記スリーブ部材 15 の下方に、皿バネ 69 が二枚重ねて配置されている。この皿バネ 69 は、前記スリーブ部材 15 を進出方向に付勢している。言い換えれば、この皿バネ 69 は、前記傾斜外面 13 と前記傾斜内面 17 とのテーパ係合を緊密にさせる方向の力を作用させる。なお、前記スリーブ部材 15 の所定量以上の進出は、前記スリーブ部材 15 の下部に形成した鍔部 77 が、前記環状突出部 1 b の上端内周に形成したフランジ 70 に接当することで阻止される。

【0124】

この第 3 実施形態の位置決め装置の動作が前記第 1 実施形態と異なる点は、以下のとおりである。

【0125】


図 11 のリリース状態では、前記ピストン 22 が前記楔部材 19 を上昇させている。また、前記スリーブ部材 15 は、前記皿バネ 69 の作用により上昇され、前記フランジ 70 に接触する位置（前記可動ストロークの進出端の位置）か、又はそれに近い位置で静止している。

【0126】

ロック駆動時に前記駆動部材 21 によって前記楔部材 19 を下降させると、この楔部材 19 はスリーブ部材 15 を押し下げようとするが、その押下げに前記皿バネ 69 の弾発力が抗する。この結果、前記楔部材 19 の傾斜外面 13 が前記スリーブ部材 15 の傾斜内面 17 に楔係合していく。これにより、上記スリーブ部材 15 は、前記第 2 径方向へ弾性的に拡張し、前記の位置決め孔 5 の内周面に密着する。

【0127】

前述の第 1 実施形態と同様に前記スリーブ部材 15 が前記皿バネ 69 を介して前記カットブロック 9 によって受け止められると、当該スリーブ部材 15 のそれ以上の下降（基端方向への移動）が阻止される。この結果、前記駆動手段 D によって前記楔部材 19 に加えられる下向きの力は、その殆どが前記傾斜外面 13 及び前記傾斜内面 17 によって前記ス



リーブ部材 15 の拡張力に変換され、このスリーブ部材 15 は、前記位置決め孔 5 の内周面を前記第 2 径方向へ強力に押圧する。

**【0128】****〔第 4 実施形態〕**

図 12・図 13 は本発明の第 4 実施形態を示している。

図 12 は、図 4 に対応する図である。図 13 は、図 12 の 13-13 線断面矢視図であって、図 5 に対応する図である。

**【0129】**

この第 4 実施形態は前記第 1 実施形態と、以下に述べる点が異なっている。

プラグ手段 6 は前記楔部材を備えず、その代わりに、前記スライド部材 61・61 に傾斜外面 13・13 を形成している。この傾斜外面 13・13 は、上方（先端方向）へ向うにつれて上記の軸心へ近づくテーパ状に構成している。このスライド部材 61 の傾斜外面 13 を、前記スリーブ部材 15（押圧部材）の前記傾斜内面 17 に直接接当させている。

**【0130】**

前記プラグ部材 12 の下端部の外側には、周方向に切れ目のない形状の環状カラー 54 が配置される。この環状カラー 54 は、後述する皿バネ 69 と前記スライド部材 61 との間で、前記スリーブ部材 15 の下部の内周に嵌合されている。この環状カラー 54 により、前記スリーブ部材 15 の内部に金属加工の切り粉等の異物が侵入することを回避できている。

**【0131】**

それぞれの前記スライド部材 61 は、前記プラグ部材 12 に対し、前記スライド面 63 に沿って前記第 1 径方向 D1 へ移動可能な状態で上記プラグ部材 12 に連結している。

**【0132】**

更に前記スライド部材 61 は、前記プラグ部材 12 に対し、軸心方向に所定のストロークだけ移動可能となっている。具体的には、前記スライド部材 61 を配置するために（前記スライド外面 64・64 を形成するために）前記プラグ部材 12 に形成した溝の上下方向（軸心方向）の寸法を、前記スライド部材 61 の上下方向の寸法より若干大きくすることで、スライド部材 61 を当該溝の内部で後述の可動ストロークだけ上下方向に移動可能としている。

**【0133】**

前記環状カラー 54 と前記フランジ 9a との間には、進出手段としての皿バネ 69 が配置される。この皿バネ 69 は、前記環状カラー 54 を介して、前記スライド部材 61・61 を上方（先端方向）へ進出させる方向の弾発力を作用させる。言い換えれば、この皿バネ 69 は、前記傾斜外面 13 と前記傾斜内面 17 とのテーパ係合を緊密にさせる方向の力を作用させる。

**【0134】**

なお、前記スライド部材 61・61 の所定量以上の上昇は、前記プラグ部材 12 の先端の外周に形成されているフランジ 70 によって阻止される。こうして、前記スライド部材 61・61 の可動ストロークの上端（先端）側の限界が規定される。一方、前記溝の基端部には、前記スライド部材 61 の下端側への移動を阻止するための規制面 78 が形成されている。こうして、前記スライド部材 61・61 の可動ストロークの下端（基端）側の限界が規定される。

**【0135】**

この第 4 実施形態の位置決め装置の動作が前記第 1 実施形態と異なる点は、以下のとおりである。

**【0136】**

図 12・図 13 のリリース状態では、ピストン 22 が前記スリーブ部材 15 を上昇させている。また、前記スライド部材 61・61 は、前記皿バネ 69 の作用により上昇され、前記フランジ 70 に接触する位置（前記可動ストロークの進出端の位置）か、又はそれに近い位置で静止している。

## 【0137】

ロック駆動時に前記駆動部材 21 によって前記スリーブ部材 15 を下降させると、このスリーブ部材 15 は前記スライド部材 61・61 を押し下げようとするが、その押下げに前記皿バネ 69 の弾発力が抗する。この結果、前記スリーブ部材 15 の傾斜内面 17 が当該スライド部材 61・61 の傾斜外面 13 に楔係合していく。これにより、上記スリーブ部材 15 は、第 2 径方向 D2 へ弾性的に拡張し、前記の位置決め孔 5 の内周面に密着する。こうして、前記プラグ部材 12 に対する前記位置決め孔 5 の位置ズレのうち、前記第 2 径方向 D2 の位置ズレが是正される。

## 【0138】

また、前記スライド部材 61・61 は前記スライド面 63・63 に沿って前記第 1 径方向 D1 へ移動自在であるため、前記スリーブ部材 15 は、前記位置決め孔 5 の内周面に密着する際に当該位置決め孔 5 の内周面から受ける反力の前記第 1 径方向 D1 の成分（分力）によって、前記スライド部材 61・61 とともに前記第 1 径方向 D1 へある程度移動することができる。従って、前記プラグ部材 12 に対する前記位置決め孔 5 の位置ズレのうち、前記第 1 径方向 D1 の位置ズレは許容される。

## 【0139】

その後、前記スライド部材 61・61 が所定量下降して前記規制面 78 に接当した状態となると、前記スライド部材 61・61 は前記プラグ部材 12（前記カットブロック 9）によって受け止められ、当該スライド部材 61・61 のそれ以上の下降（基端方向への移動）が阻止される。この結果、前記駆動手段 D によって前記スリーブ部材 15 に加えられる下向きの力は、その殆どが前記傾斜外面 13 及び前記傾斜内面 17 によって前記スリーブ部材 15 の拡張力に変換され、このスリーブ部材 15 は、前記位置決め孔 5 の内周面を前記第 2 径方向 D2 へ強力に押圧する。

## 【0140】

本実施形態では、前述の第 1～第 3 実施形態では必要であった楔部材を省略でき、構成が簡素化されている。

## 【0141】

## 〔第 5 実施形態〕

図 14 は本発明の第 5 実施形態を示す図であって、図 4 に対応する図である。

## 【0142】

この第 5 実施形態は前記第 4 実施形態の変形例として構成されている。図 12 に示すように、前記ベースプレート 1 にボス部を突出せず、代わりに前記カットブロック 9 の前記フランジ 9a の上面を環状に突出させて、この環状突出部 1b の上端面に前記支持面 1a を構成している。

## 【0143】

前記プラグ部材 12 の上端面に開口させたネジ孔 66 に鍔付ボルト 67 の下部が螺合される。この鍔付ボルト 67 の頭部には図略の六角形の孔が開口され、この孔に六角レンチ 68 を鎖線で示すように係合可能である。この鍔付ボルト 67 の頭部と鍔部との間には、前記キャップ部材 25 が、相対的に回転可能かつ上下動不能に支持される。このキャップ部材 25 の下部に形成した係止凹部 56 には前記スリーブ部材 15 の前記上フランジ 27 が嵌合される。

## 【0144】

本実施形態では、前記鍔付ボルト 67 が前述の駆動部材 21 に相当する。また、前記ネジ孔 66 と前記六角レンチ 68 が、前述の駆動手段 D を構成する。

## 【0145】

以上の構成で、前記六角レンチ 68 を前記鍔付ボルト 67 の頭部の孔に差し込んで回転させると、その鍔付ボルト 67 が上下方向へ螺進する。これにより、前記スリーブ部材 15 が下方向へロック移動し、あるいは上方向へリリース移動する。この結果、前記スリーブ部材 15 は、前記スライド部材 61・61 の外面の前記傾斜外面 13・13 とのテーパ係合によって、径方向に拡大あるいは縮小する。その他の構成及び動作については、上述

の第4実施形態と同様である。

【0146】

なお、本実施形態のようにボルト67等のネジ部材を駆動部材として採用する構成は、本明細書で示される他の実施形態においても適用可能である。

【0147】

〔第6実施形態〕

図15から図18は、本発明の第6実施形態を示している。

図15は図4に対応する図である。図16は図15の16-16線断面矢視図である。図17は、位置決め装置において係合部材が拡張方向に変位して位置決め孔の内周面に密着した状態を示す断面図である。図18は図17の要部拡大図である。

【0148】

この第6実施形態は前記第4実施形態(図12)の変形例として構成されている。

前記キャップ部材25と前記リング26の間に形成される溝には、円筒状の連結部材81の上フランジ27が係合される。この連結部材81の筒壁には、前記スライド部材61・61の前記傾斜外面13・13にそれぞれ対面する部分を貫通状に切り欠いて2つの支持窓82を形成している。これら支持窓82・82には、ブロック状に構成した一对の係合部材(押圧部材)15・15が径方向に移動自在となるように嵌合されている。

【0149】

これら係合部材15・15は、前記スライド部材61・61を挟むようにして互いに径方向に対面して配置されている。また、それぞれの係合部材15には傾斜内面17を形成しており、この傾斜内面17は前記スライド部材61の前記傾斜外面13にテーパ係合可能である。前記傾斜外面13・前記傾斜内面17は、いずれも、先端方向に向かうに従って軸心に近づくテーパ面に形成している。

【0150】

それぞれの係合部材15にはストレート外面16を形成している。本実施形態では、このストレート外面16には図15に示すように鋸歯状の細かい凹凸を形成している。この凹凸により、前記係合部材15を前記ワークパレット2の前記位置決め孔5の内周面に密着させたときに大きな摩擦力を発生させ、前記ワークパレット2を前記係合部材15・15を介して大きな力で引き下げることが可能な構成となっている。ただし、他の実施形態と同様に、ストレート外面16・16を平坦な面に形成しても良い。

【0151】

それぞれの係合部材15には、貫通孔83が周方向に形成されている。この貫通孔83には、前記プラグ部材12の外周に配置されたリングバネ(戻し部材)84が挿通されている。このリングバネ84は、前記係合部材15・15に対し縮径方向の弾発力を作用させている。

【0152】

前記プラグ部材12の下端部には環状のバネ受け88が嵌合されている。このバネ受け88と前記スライド部材61・61との間には、圧縮コイルバネ(進出手段)69が弾設される。この圧縮コイルバネ69は、前記スライド部材61・61を、上方向(先端方向)へ付勢する。

【0153】

前記バネ受け88の外側には、周方向に切れ目のない形状の環状カラー54が配置される。この環状カラー54は前記連結部材81の下部の内周に嵌合されている。この環状カラー54により、前記連結部材81の内部に金属加工の切り粉等の異物が侵入することを回避できている。

【0154】

前記連結部材81の前記上フランジ27と前記リング26の間には環状の隙間が形成されている。また、前記環状カラー54と前記バネ受け88の間にも環状の隙間が形成されている。これら環状の隙間により、前記連結部材81の移動(前記第1径方向D1の移動)が許容されている。



## 【0155】

以上の構成で、図15・図16に図示のリリース状態では前記駆動部材21によって前記連結部材81が上昇されており、前記係合部材15・15も上昇されている。また、前記圧縮コイルバネ69の作用によって、前記スライド部材61・61も上昇されている。このリリース状態では、前記係合部材15・15は前記リングバネ84によって縮径方向に引っ張られており、前記連結部材81の外面から殆ど突出していない状態とされている（非拡張状態）。

## 【0156】

このリリース状態において前記リリース室35の圧油を排出するとともに前記ロック室34に圧油を供給すると、前記ピストン22（駆動部材21）が下方へ駆動される。この駆動部材21の下降に伴って前記連結部材81が下方へ移動し、当該連結部材81に連結されている前記係合部材15・15を下方へ引き下げる（ロック移動）。

## 【0157】

この結果、前記係合部材15・15は、前記圧縮コイルバネ69の弾発力によって上昇位置に保持された前記スライド部材61・61にテーパ係合し前記リングバネ84を弾性変形させながら拡張方向（前記第2径方向D2）に変位して前記連結部材81から突出する。こうして、図17に示すように、前記係合部材15・15の前記ストレート外面16・16が前記位置決め孔5の内周面に密着する。引き続いて、その密着した係合部材15・15が前記ワークパレット2を強力に引き下げるのである。

## 【0158】

この第6実施形態では、ブロック状の前記係合部材15・15が前記第2径方向D2に拡張変位して、そのストレート外面16を前記位置決め孔5の内周面に密着させて拡張力を作用させる構成である。従って、この密着により、前記プラグ部材12に対する前記位置決め孔5の位置ズレ（図16に図示の位置ズレ）のうち、前記第2径方向D2の位置ズレは是正される。一方、前記スライド部材61は、前記スライド面63及び前記スライド外面64に沿って前記第1径方向D1へ移動自在である。このため、図17に示すように、前記係合部材15・15は、前記位置決め孔5を押圧する際に当該位置決め孔5の内周面から受ける反力の前記第1径方向D1の成分（分力）によって、前記連結部材81及び前記スライド部材61・61とともに前記第1径方向D1へある程度移動することができる。従って、前記プラグ部材12に対する前記位置決め孔5の位置ズレのうち、前記第1径方向D1の位置ズレは許容される。

## 【0159】

本実施形態では、拡張方向に変位する前記係合部材15・15が前記位置決め孔5の内周面に密着する構成である。従って、環状の前記スリーブ部材を変形させて前記位置決め孔5の内周面に密着させる前述の第1～第5実施形態に比し、前記係合部材15・15の変位量を大きく確保できる。この結果、前述の非拡張状態における嵌合隙間（図16に図示する隙間G）を大きく確保でき、前記位置決め孔5に前記係合部材15を一層スムーズに挿入できる。

## 【0160】

図18は、図17に2つ示される前記係合部材15及び前記スライド部材61のうちの一方を拡大して示したものである。この図に示すように、それぞれの前記係合部材15の外面には、2つの当たり部15a・15aと、これら2つの当たり部の間に配置される逃げ部15bとが周方向に並んで形成されている。前記当たり部15a・15a（前述のストレート外面16・16に相当）は、円弧面に形成して、前記位置決め孔5の内周面に接触するように構成している。また、前記逃げ部15bは平坦な面に形成している。そして、前記当たり部15a・15aが前記位置決め孔5の内周面に接触したときに、上記の逃げ部15bと前記位置決め孔5の内周面との間に隙間Bが形成される。

## 【0161】

このように構成することで、前記位置決め孔5の内径が大きい場合など、当該位置決め孔5の内周面に密着するために前記係合部材15・15の大きな変位が必要な場合でも、



適切に位置決めすることができる。即ち、それぞれの係合部材 15・15につき2つで計4つの前記当たり部 15a・15aが前記位置決め孔5の内周面を押動するのに対して、前記逃げ部 15bにおいては押動しない構成となる。このため、前記係合部材 15は前記当たり部 15aの4点で拵径力（前記第2径方向D2の力）を加え、前記位置決め孔5と前記プラグ部材 12との間の前記第2径方向D2の位置ズレを適切かつ確実に是正することができる。

#### 【0162】

また、それぞれの前記スライド部材 61の外面には、2つの当たり部 61a・61aと、これら2つの当たり部の間に配置される逃げ部 61bとが周方向に並んで形成されている。前記当たり部 61a・61aは、円錐面に形成して、前記係合部材 15の内面に接触するように構成している。また、前記逃げ部 61bは平坦な面に形成しており、この逃げ部 61bと前記係合部材 15の内面との間に隙間Cが形成されている。こうすることで、それぞれの前記スライド部材 61・61につき2つで計4つの前記当たり部 61a・61aが前記係合部材 15の内面に接触し、前述のロック移動時に前記係合部材 15が前記位置決め孔5の内周面から受ける反力をその4点で安定的に受けることが可能な構成となる。従って、前記位置決め孔5と前記プラグ部材 12との間の前記第2径方向D2の位置ズレを適切かつ確実に是正することができる。

#### 【0163】

なお、前記逃げ部 61bは、前記スライド部材 61の外面に形成することに限定されない。例えば、前記スライド部材 61の外面を周方向全体にわたって円錐面に形成する一方で、前記係合部材 15の内面の周方向中央部をV字状に凹ませて逃げ部を構成することもできる。

#### 【0164】

また本実施形態では、前記プラグ部材 12の外周に円筒状の連結部材 81が配置され、この連結部材 81の前記支持窓 82に前記係合部材 15を前記第2径方向D2へ移動可能に支持している。従って、ブロック状の前記係合部材 15・15を支持するための簡素な構成が実現できている。また、本実施形態では前記連結部材 81は前記駆動部材 21に連結されているため、当該連結部材 81を前記駆動手段Dによって駆動することが可能である。この結果、前記連結部材 81を上下動させることで、前記係合部材 15・15を前記ロック移動及び前記リリース移動させることが容易である。加えて、前記連結部材 81は円筒状に構成されているから、連結部材 81の内部に異物が侵入しにくい構成とすることができる。

#### 【0165】

更に本実施形態では、前記係合部材 15・15に縮径方向の弾発力を作用させるリングバネ 84が備えられている。従って、前述のリリース移動時に、ブロック状の前記係合部材 15・15を非拵径状態へ容易に戻すことができる。なお、前記リングバネ 84は、金属製のバネに限らず、例えばゴム等の弾性体で代替可能である。

#### 【0166】

更に、前記連結部材 81に前記係合部材 15を支持させる構成は、第1実施形態などに適用することができる。具体的には、第1実施形態（図2）における前記スリーブ部材 15の代わりに、本実施形態の前記連結部材 81及び係合部材 15・15を前記楔部材 19（図2）の外側に配置すればよい。

#### 【0167】

本明細書で開示される本実施形態以外の実施形態でも、前記ストレート外面 16の外面に鋸歯状の凹凸を形成することが可能である。また、ストレート外面 16の凹凸は、鋸歯状に限られるものではなく、種々の形状を採用して良い。

#### 【0168】

#### 〔第7実施形態〕

図19は、第7実施形態の位置決め装置の横断面図であって、図16に類似する図である。

## 【0169】

この第7実施形態は前述の第6実施形態の変形例として構成されており、図19に示すように、二対の係合部材15を、それぞれ前記スライド部材61・61を挟んで径方向に対面するように設けている。前記連結部材81には、4つの係合部材15を支持するため、前記支持窓82を4つ設けている。

## 【0170】

図19に示すように、各対の係合部材15・15が対面する向き（前述のロック移動時に前記係合部材15・15が突出する向き、即ち、前記第2径方向D2に等しい）は、前記第1径方向D1に対し垂直ではなく、傾斜している。また、一方の係合部材15・15の対が対面する向きD2は、他方の係合部材15・15の対が対面する向きD2に対して、前記第1径方向D1に垂直な直線に関して対称である。

## 【0171】

それぞれの前記スライド部材61には、一对の傾斜外面13・13を周方向両側に備えている。この傾斜外面13・13は、円錐面ではなく、先端に向かうに従って軸心に近づくように傾斜させた平面に形成している。それぞれの傾斜外面13の外側には前記係合部材15を配置している。前記係合部材15の内面（前記傾斜内面17）も、円錐面ではなく、先端に向かうに従って軸心に向かうように傾斜させた平面に形成している。図19に示す平面視において、前記傾斜外面13及び前記傾斜内面17は、前記第2径方向2に対し垂直であり、前記第1径方向D1に対しやや傾斜している。

## 【0172】

この第7実施形態において、前記駆動部材21を介して前記連結部材81を下降させることにより、それぞれの前記係合部材15が下方にロック移動し、前記傾斜外面13と前記傾斜内面17とのテーパ係合作用により、前記係合部材15は第2径方向D2へ拡張して前記位置決め孔5の内周面に密着する。この結果、この第2径方向D2・D2の位置ズレは是正される。

## 【0173】

ここで前述したとおり、一方の係合部材15・15の対が対面する向きD2は、他方の係合部材15・15の対が対面する向きD2に対して、前記第1径方向D1に垂直な直線に関して対称である。従って、前記ロック移動により、前記第1径方向D1に垂直な方向の位置ズレが是正される形となる。なお、前記第1径方向D1の位置ズレは、前述の第6実施形態と同様に許容される。

## 【0174】

この第7実施形態では、それぞれの前記係合部材15の外面は、単純な円弧面（ストレート外面16）に形成し、前記第6実施形態のような逃げ部を形成していない。これは、本実施形態では、4つの係合部材15が、それぞれの第2径方向D2に同時に突出することで、前記ワークパレット2の前記位置決め孔5の内周面に対し、前記第1径方向D1に垂直な方向へ4点で拡張力を加え、前記第1径方向D1に垂直な方向の位置ズレを是正することが可能だからである。その他の構成及び動作は、前記第6実施形態と同様である。

## 【0175】

なお、前記係合部材15は、二対備えることに代えて、三対以上備えてもよい。

## 【0176】

〔変更態様〕

上記の第1～第7実施形態の位置決め装置は次のように変更可能である。

## 【0177】

(1) 前記プラグ部材12と前記カットブロック9とは、一体に形成することに代えて、別体に形成してもよい。この場合、上記プラグ部材12をボルト締め又はネジ止め等によってカットブロック9に強固に固定すればよい。

## 【0178】

(2) また、上記カットブロック9と前記ベースプレート1とは、別体に形成することに代えて、一体に形成してもよい。

## 【0179】

(3) 前記スライド面 63・63 や前記スライド外面 (傾斜外面) 64・64 は、前記第 1 径方向 D1 に平行に形成せず、当該第 1 径方向 D1 に対し傾斜して形成してもよい。

## 【0180】

(4) 前記スライド部材 61・61 は、一対で設ける場合に限られず、二対以上設けることもできる。

## 【0181】

(5) 前記支持面 1a は、前記カットブロック 9 の前記ボス部 1b に形成することに代えて、そのブロック 9 の平坦な上面に直接に形成してもよく、また、前記ベースプレート 1 から上向きに突出させたボス部に形成してもよい。

## 【0182】

## 〔クランピングシステム〕

以下に、上記位置決め装置のクランピングシステムへの第 1 適用例を図 20 を参照して説明する。

図 20 は上記クランピングシステムの模式平面図である。

## 【0183】

図 20 に示すように、マシニングセンタのテーブル T の上面に前記ベースプレート 1 が固設される。前記ワークパレット 2 は、本発明のクランピングシステムを介して、前記ベースプレート 1 に対し着脱自在に構成されている。このクランピングシステムは、第 1 の位置決め装置 101 と第 2 の位置決め装置 102 を備えている。

## 【0184】

図では 1 個のみしか図示していないが、前記ワークパレット 2 は複数個用意されており、必要に応じて交換して前記ベースプレート 1 に対し装着可能となっている。前記ワークパレット 2 が前記ベースプレート 1 に対し装着される際は、前記の 2 つの位置決め装置 101・102 によって位置決め及び固定される。

## 【0185】

第 1 の位置決め装置 101 は、前記ワークパレット 2 に形成した前記位置決め孔 5 の内周面に差し込まれるスリーブ部材 15 を備え、このスリーブ部材 15 のほぼ全周にわたって拡径力を作用させて前記位置決め孔 5 の内周面に密着させ、前記ベースプレート 1 に前記スリーブ部材 15 を介して前記ワークパレット 2 を水平方向へ位置決めする。具体的には、前記位置決め孔 5 の軸心が前記第 1 の位置決め装置 101 の軸心 A (図 20 参照) に一致するように位置決めされる。引き続いて、その密着した前記スリーブ部材 15 を下方へ駆動して、前記ベースプレート 1 に前記ワークパレット 2 を固定するように構成している。

## 【0186】

なお、前記第 1 の位置決め装置 101 の具体的構成は種々考えられるが、例えば、前記第 1 実施形態の位置決め装置において前記スライド外面 64・64 や前記スライド部材 61・61 を設けず、前記プラグ部材 12 の外周面全体に密着するように (前述の隙間 A・A がないように) 前記楔部材 19 を配置し、この楔部材 19 の前記傾斜外面 13 に前記スリーブ部材 15 の前記傾斜内面 17 をテーパ係合可能に構成したものが考えられる。

## 【0187】

また、前記第 2 の位置決め装置 102 として、前記の第 1 実施形態の位置決め装置 (図 2・図 3 参照) が採用されている。前記スライド部材 61・61 は、2 つの位置決め装置 101・102 の軸心 A・B 同士を結ぶ直線 L にほぼ直交する方向に対面するように配置される。言い換えれば、前記第 2 径方向 D2 が前記直線 L にほぼ直交するように配置される。従って、前記スリーブ部材 15 には前記スライド部材 61・61 が対面する向き (前記第 2 径方向 D2) に拡径力が作用し、これにより、前記ワークパレット 2 が上述の軸心 A を中心として旋回するのを阻止する。なおこのとき、前記スリーブ部材 15 は、前記楔部材 19 及び前記スライド部材 61・61 とともに前記スライド面 63・63 に沿って (前記第 1 径方向 D1 に) 移動することによって、上記の軸心 A に対する径方向の誤差は吸収

される。引き続いて、その密着した前記スリーブ部材 15 を下方へ駆動して、前記ベースプレート 1 に前記ワークパレット 2 を固定する。

#### 【0188】

本クランピングシステムでは、前記第 2 の位置決め装置 102 として第 1 実施形態の位置決め装置を採用しているから、位置決めを高精度で行うことができる。また、前記ワークパレット 2 と前記ベースプレート 1 とを着脱する際に、前記第 2 の位置決め装置 102 において前記位置決め孔 5 の内周面と前記ストレーツ外面 16 との間に前述の嵌合隙間 G (図 4・図 5 に図示) を形成した状態とできる。従って、着脱の際の作業性を良好とできている。更には、前述のロック移動の際に、前記第 2 の位置決め装置 102 において前記スリーブ部材 15 を介して前記ワークパレット 2 を前記ベースプレート 1 に対して近接させることが可能であるから、必要に応じて、専用のクランプ手段を省略することができる。

#### 【0189】

また、本クランピングシステムのように、複数の位置決め装置 101・102 のうちの少なくとも一つに前述の第 1 実施形態の位置決め装置を採用することで、様々な態様の位置決めを行えるクランピングシステムを提供できる。

#### 【0190】

図 21 は、上記位置決め装置のクランピングシステムへの第 2 適用例を示す平面模式図である。この第 2 適用例は、長尺状のワークパレット 2 を前記ベースプレート 1 に固定するために好適な一例として構成されている。この第 2 適用例では図 21 に示すように、前記第 1 実施形態の 3 つの位置決め装置 111~113 が、当該ワークパレット 2 の長手方向に沿って並べて設けられている。

#### 【0191】

中間位置の位置決め装置 112 においては、前記スライド部材 61・61 の対面方向は前記ワークパレット 2 の長手方向に沿っている。この位置決め装置 112 では、前記ワークパレット 2 の長手方向における位置決めを行う。

#### 【0192】

また、端の位置の位置決め装置 111・113 においては、前記スライド部材 61・61 の対面方向は前記ワークパレット 2 の長手方向にほぼ垂直になっている。この位置決め装置 111・113 は、前記ワークパレット 2 の長手方向と垂直な方向における位置決めを行うとともに、前記中間位置の位置決め装置 112 の軸心を中心とした前記ワークパレット 2 の旋回を阻止する。

#### 【0193】

〔クランピングシステムの変更態様〕

上記クランピングシステムは次のように変更可能である。

#### 【0194】

(1) 図 20 の第 1 適用例においては、前記第 2 の位置決め装置 102 として前記第 1 実施形態の位置決め装置を用いる構成に限定されず、例えば前述した第 2~第 7 の実施形態の位置決め装置を採用することができる。図 21 の第 2 適用例においても、第 1 実施形態の位置決め装置に代えて、第 2~第 7 の実施形態の位置決め装置を使用できる。

#### 【0195】

(2) 図 20 の第 1 適用例においては、前記位置決め装置 101・102 のほかに、前記ワークパレット 2 の前記被支持面 2a を前記ベースプレート 1 の前記支持面 1a に押圧可能なクランピング手段を特別に設けることもできる。図 21 の第 2 適用例においても同様である。

#### 【0196】

(3) 前記の第 1 ブロックと第 2 ブロックとの組み合わせは、例示したベースプレート 1 とワークパレット 2 の組み合わせに代えて、工作機械のテーブルとワークパレットの組み合わせ、ワークパレットと治具ベースの組み合わせ、治具ベースとワークピースの組み合わせ、溶接治具等の作業用治具とワークピース等の作業物の組み合わせであってもよい。

。更には、射出成形機やプレス機の盤面と金型の組み合わせであってもよい。このほかにも、本発明は、レーザ加工機や放電加工機などの各種の加工機械のワークピース・ツール等の位置決めにも適用可能である。

【図面の簡単な説明】

【0197】

【図1】 本発明の第1実施形態に係る位置決め装置のプラグ手段の平面図。

【図2】 図1の2-2線断面矢視図。

【図3】 図2の3-3線断面矢視図。

【図4】 位置決め装置においてプラグ手段を位置決め孔に差し込んだ状態を示す立面断面図。

【図5】 図4の5-5線断面矢視図。

【図6】 位置決め装置においてスリーブ部材が拡張して位置決め孔の内周面に密着した状態を示す立面断面図。

【図7】 図6の7-7線断面矢視図。

【図8】 位置決め装置においてスリーブ部材が強力に拡張した状態を示す立面断面図。

【図9】 第1実施形態の位置決め装置の効果を説明するための比較対照図であって、図3に相当する図。

【図10】 第2実施形態の位置決め装置の立面断面図であって、図2に類似する図。

【図11】 第3実施形態の位置決め装置の立面断面図であって、図4に類似する図。

【図12】 第4実施形態の位置決め装置の立面断面図であって、図4に類似する図。

【図13】 図12の13-13線断面矢視図。

【図14】 第5実施形態の位置決め装置の立面断面図であって、図4に類似する図。

【図15】 第6実施形態の位置決め装置の立面断面図であって、図4に類似する図。

【図16】 図15の16-16線断面矢視図。

【図17】 位置決め装置において係合部材が拡張方向に変位して位置決め孔の内周面に密着した状態を示す断面図。

【図18】 図17の要部拡大図。

【図19】 第7実施形態の位置決め装置の横断面図であって、図16に類似する図。

【図20】 クランピングシステムの第1例を示す平面断面模式図。

【図21】 クランピングシステムの第2例を示す平面断面模式図。

【符号の説明】

【0198】

1 ベースプレート（第1ブロック）

2 ワークパレット（第2ブロック）

5 位置決め孔

12 プラグ部材

13 傾斜外面

15 スリーブ部材（第1押圧部材・押圧部材）、係合部材（押圧部材）

17 傾斜内面

19 楔部材（第2押圧部材）

21 駆動部材

61・61 スライド部材

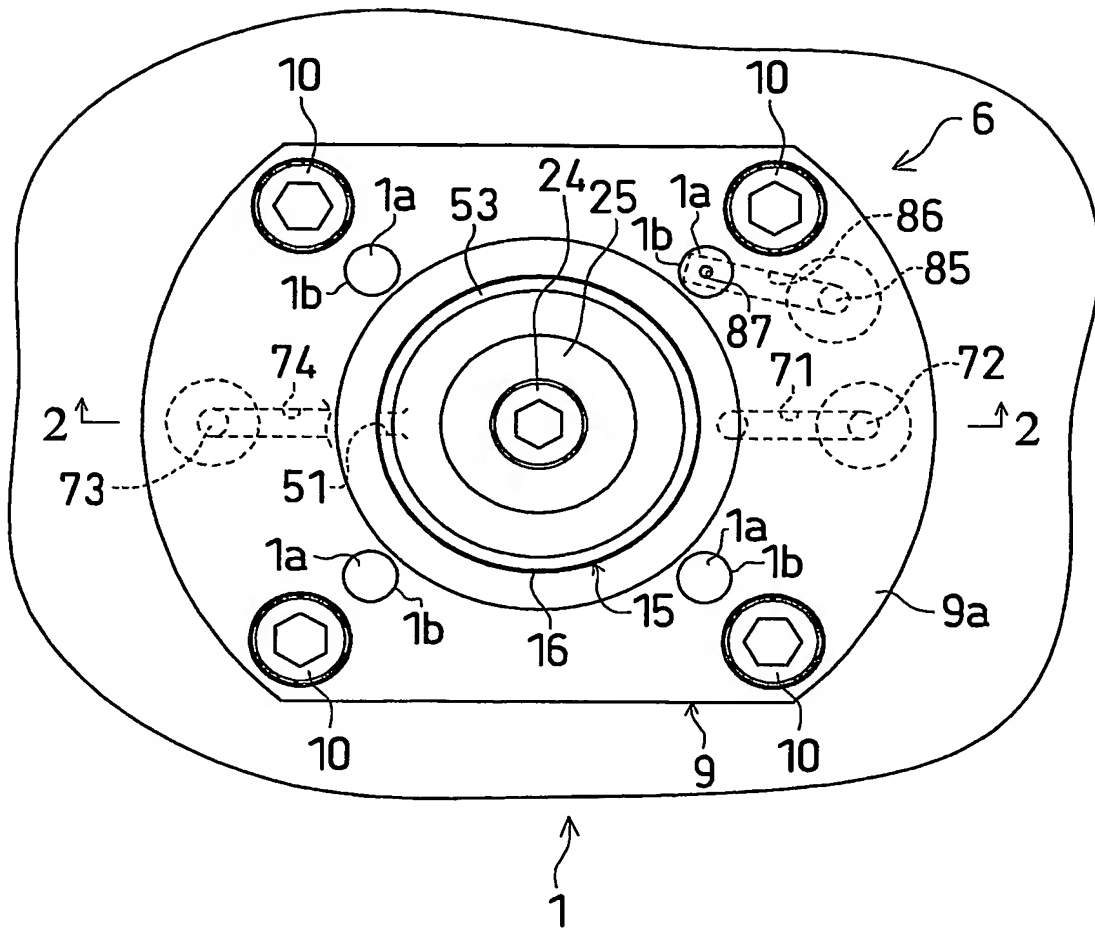
69 皿バネ、進出ピストン、コイルバネ（進出手段）

D 駆動手段

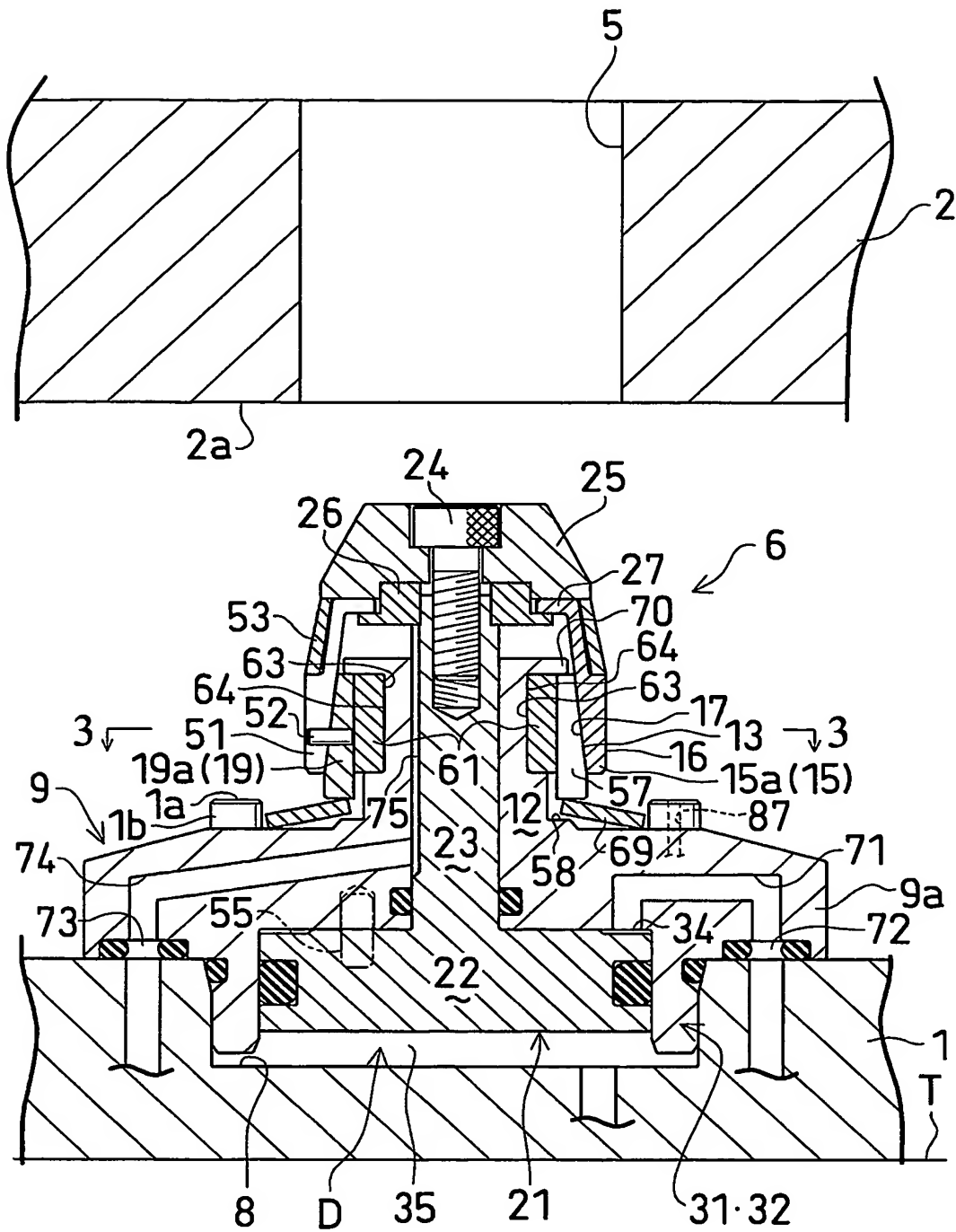
D1 第1径方向

D2 第2径方向

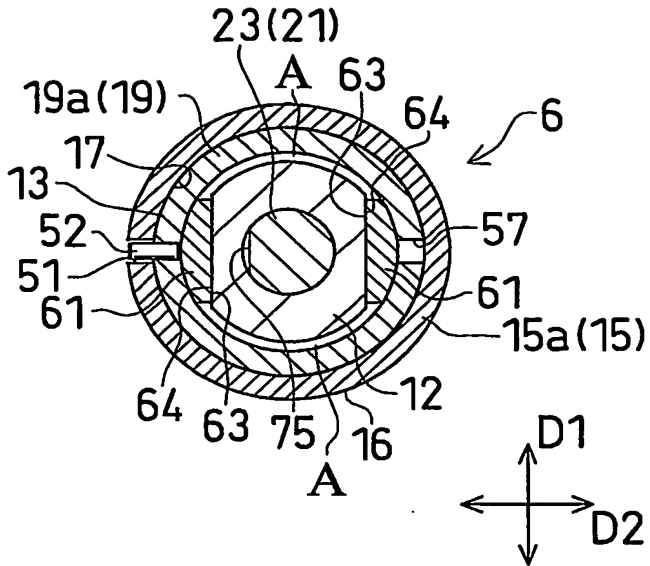
【書類名】 図面  
【図 1】



【図 2】

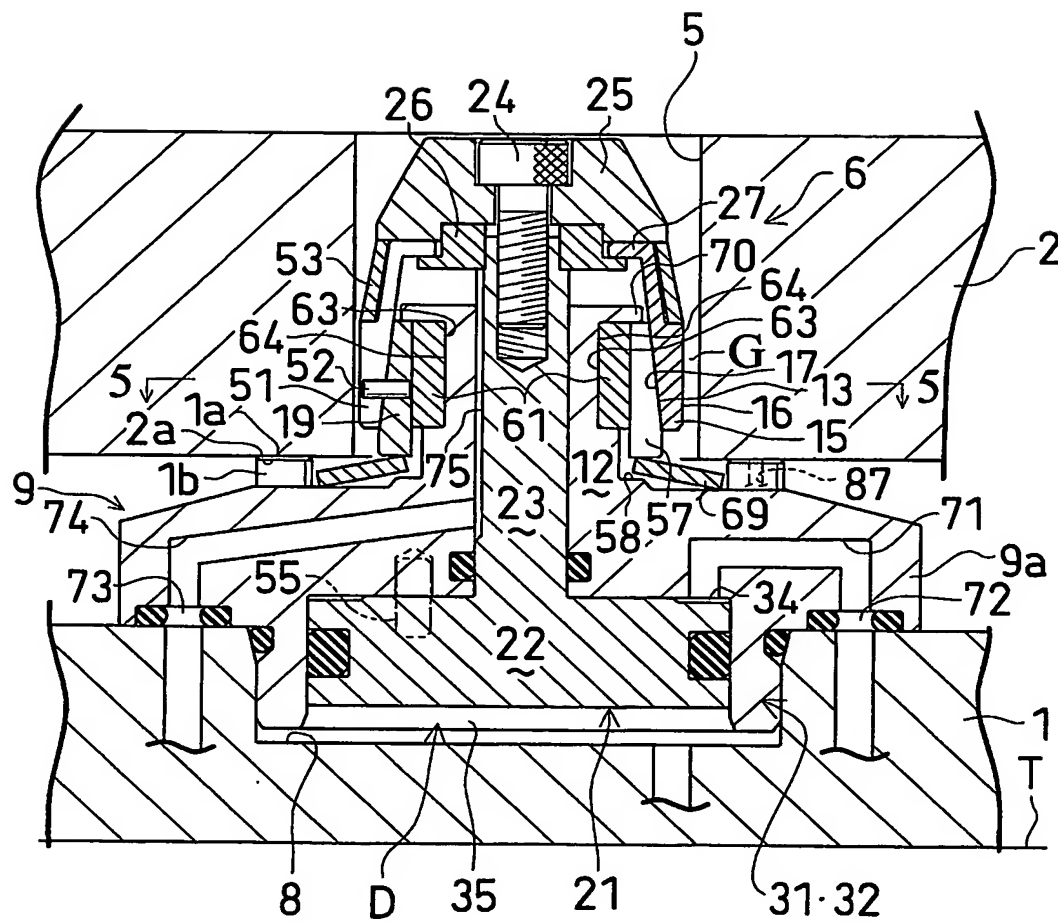


【圖 3】

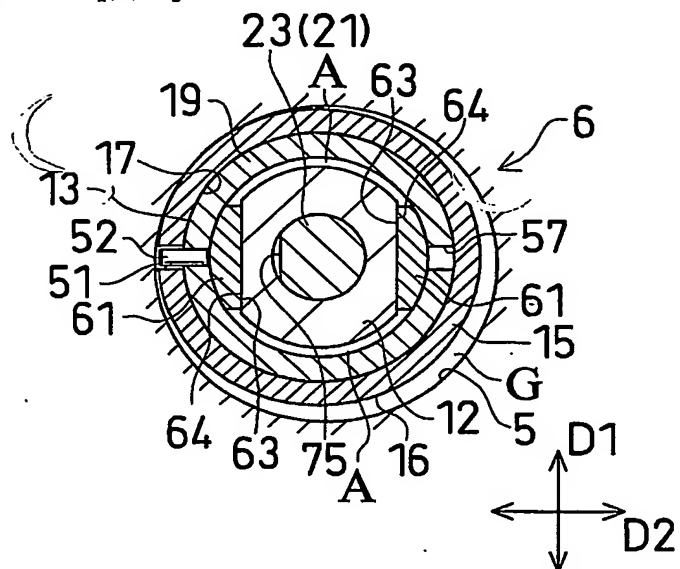




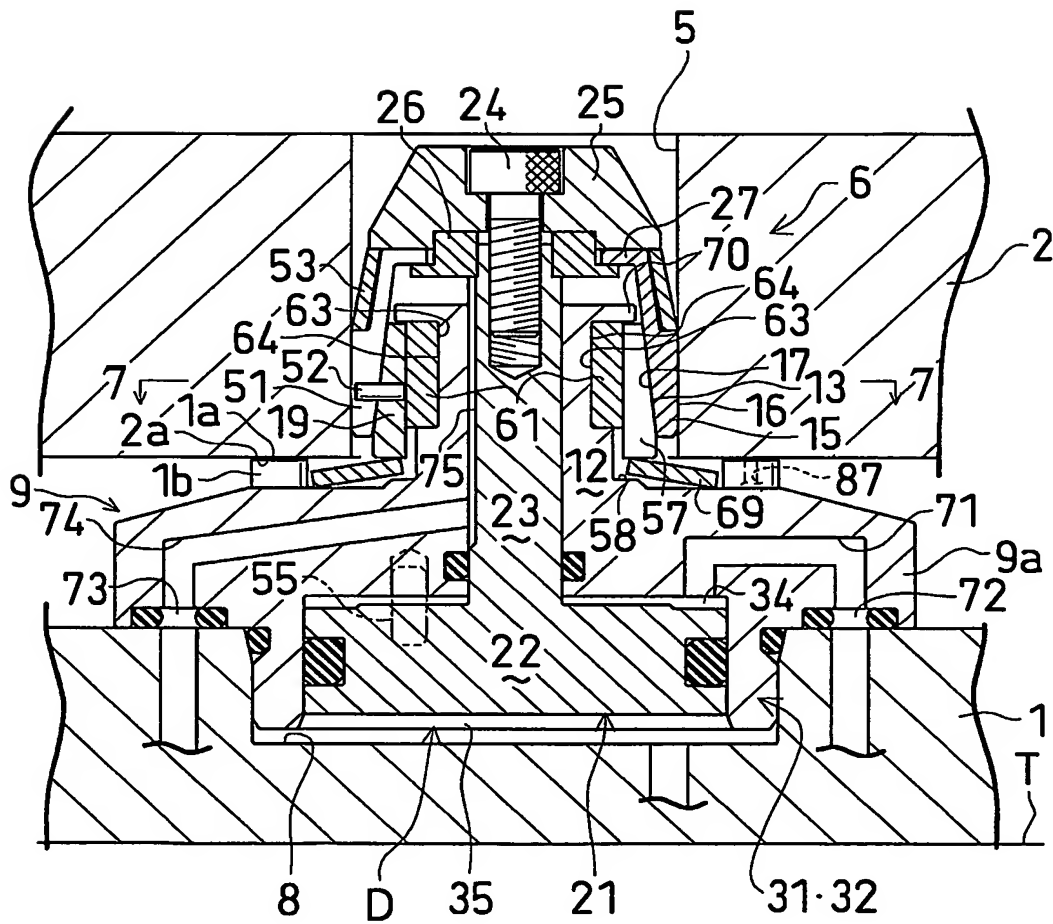
【図 4】



【図 5】

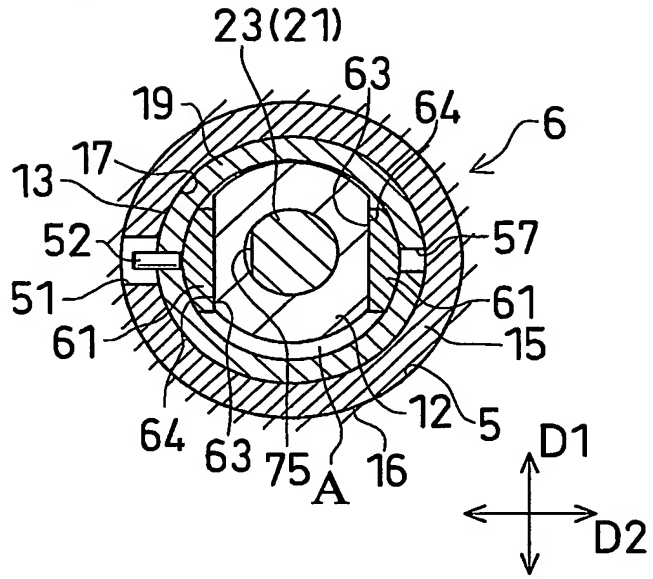


【図 6】

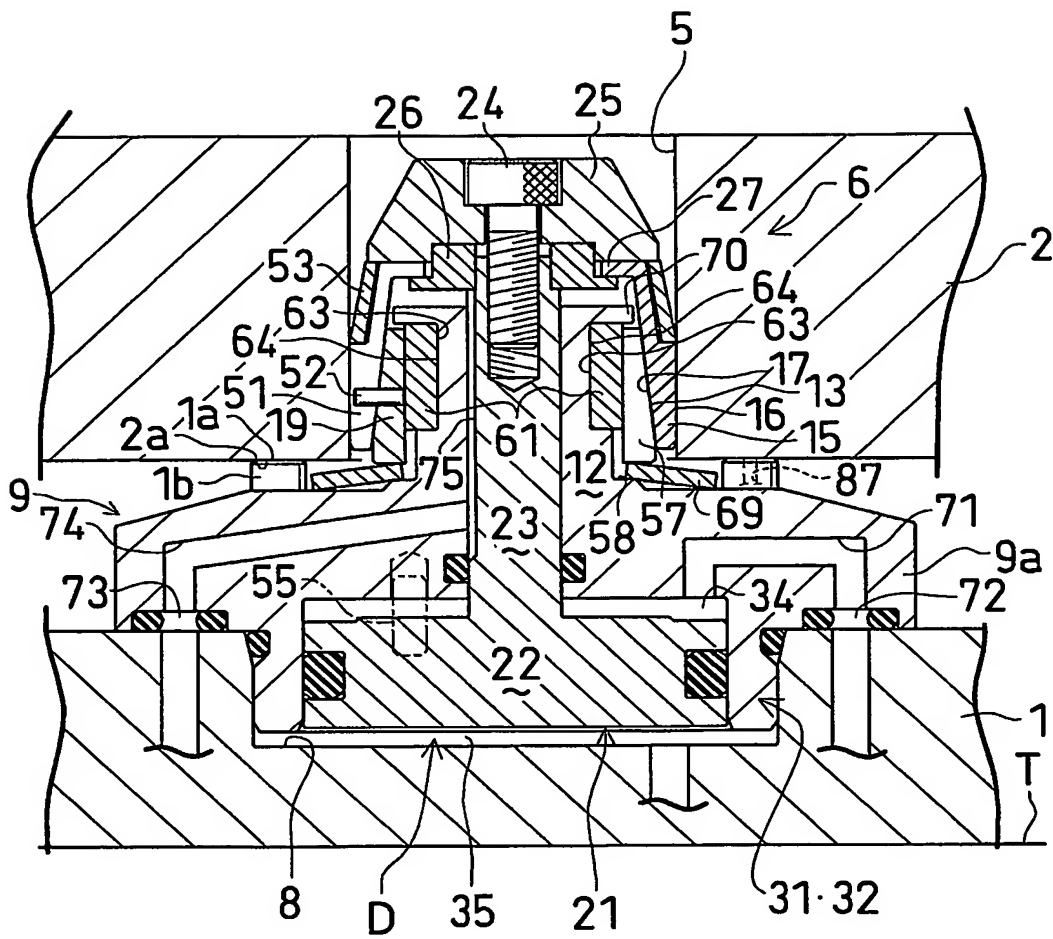




【図 7】

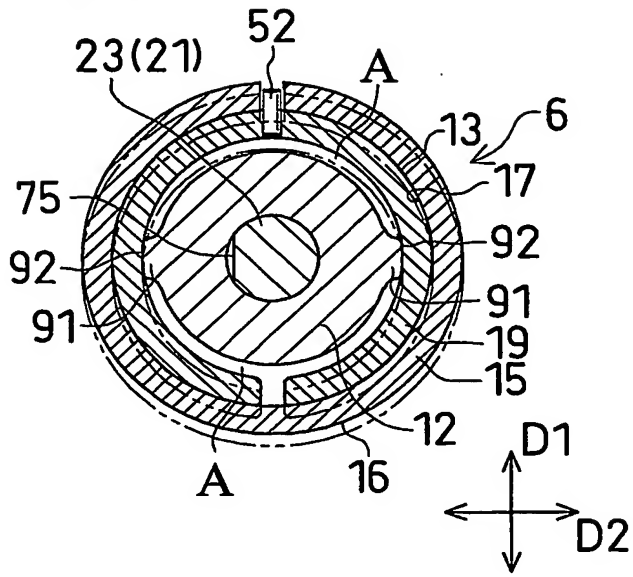


【図 8】

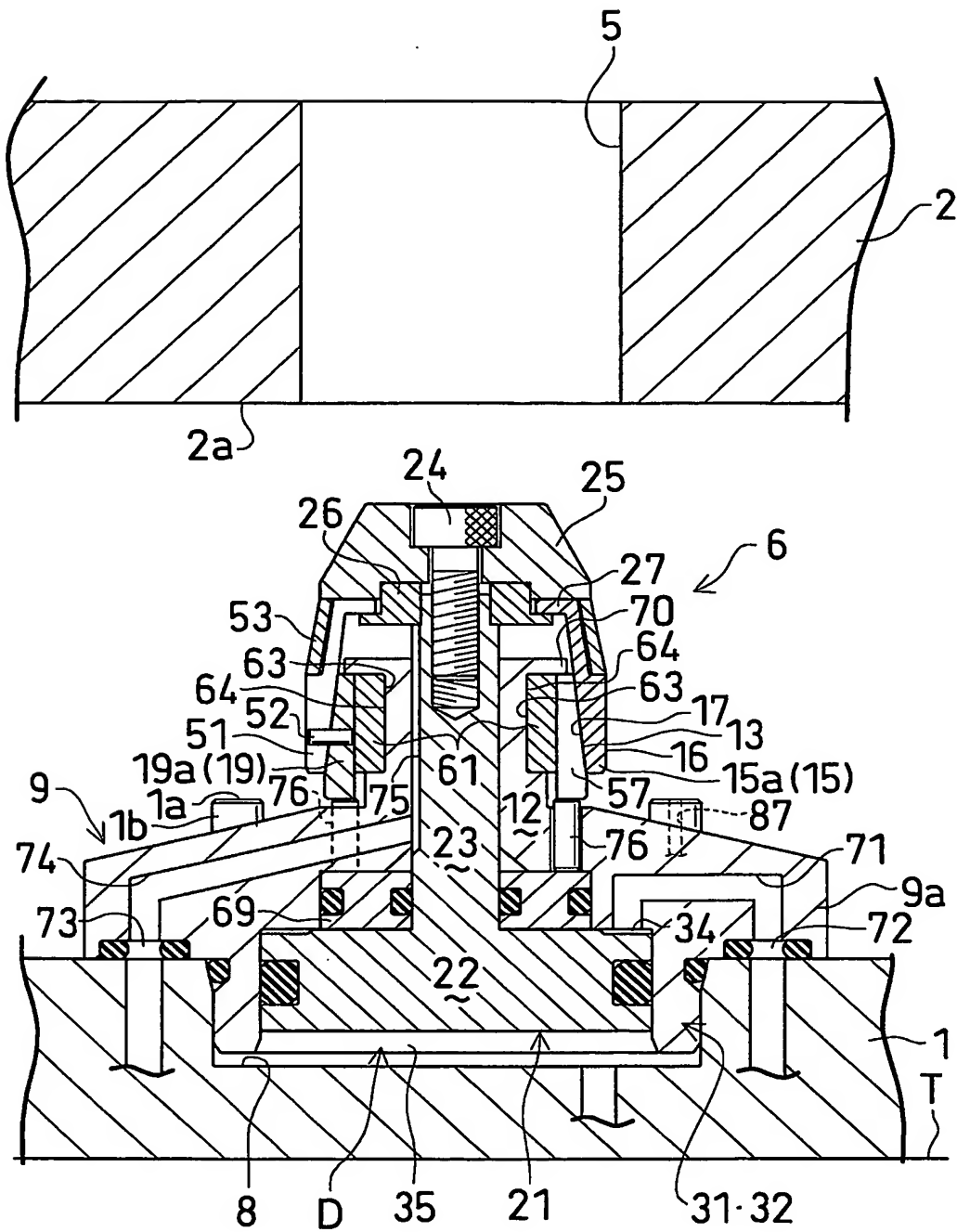




【図 9】



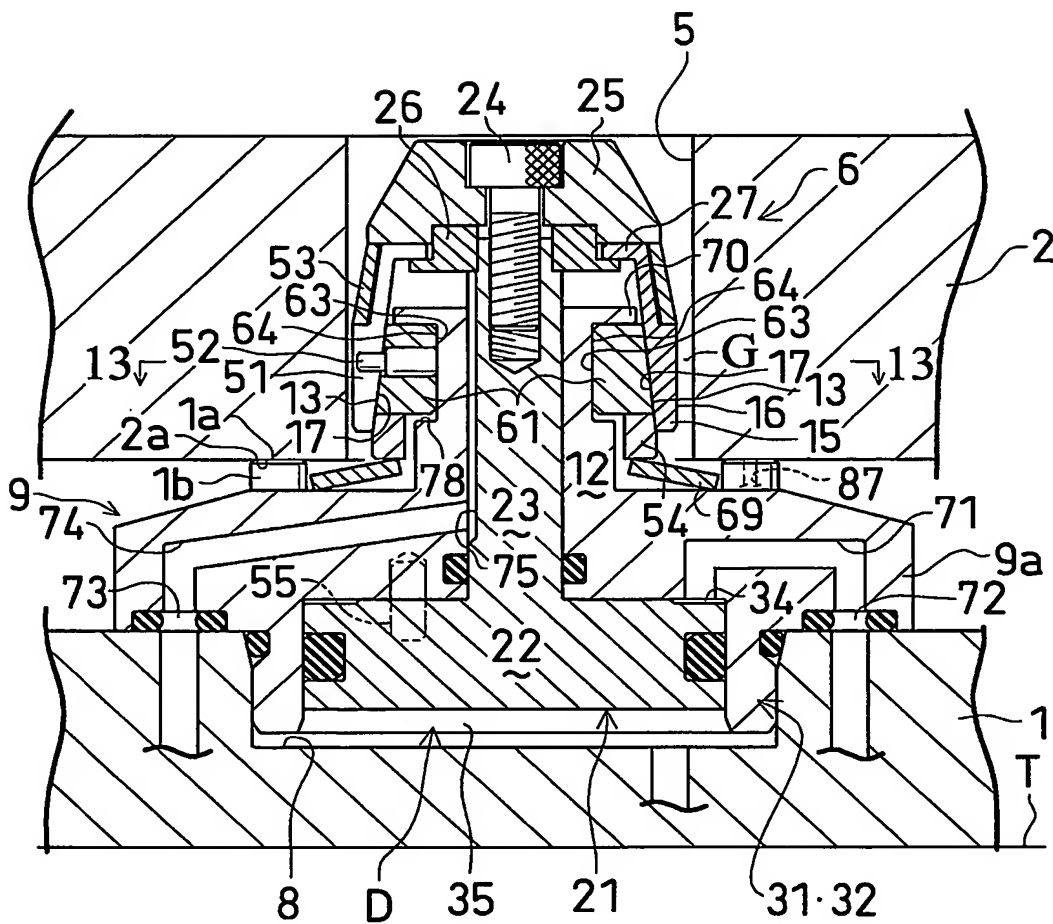
【図 10】





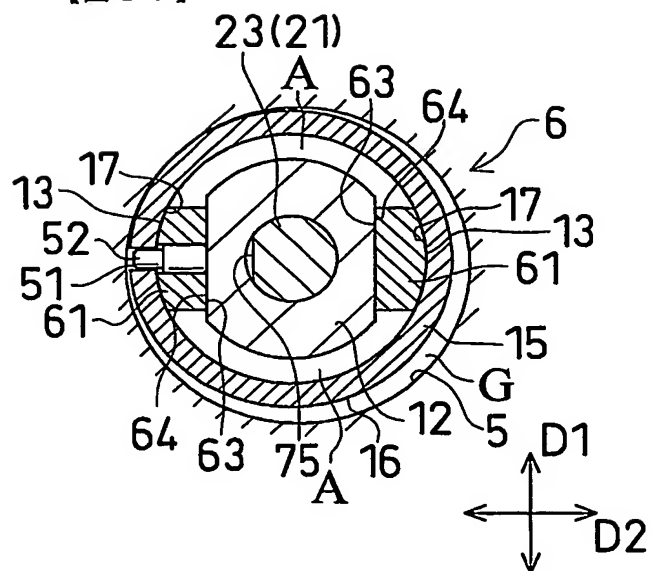


【図 12】



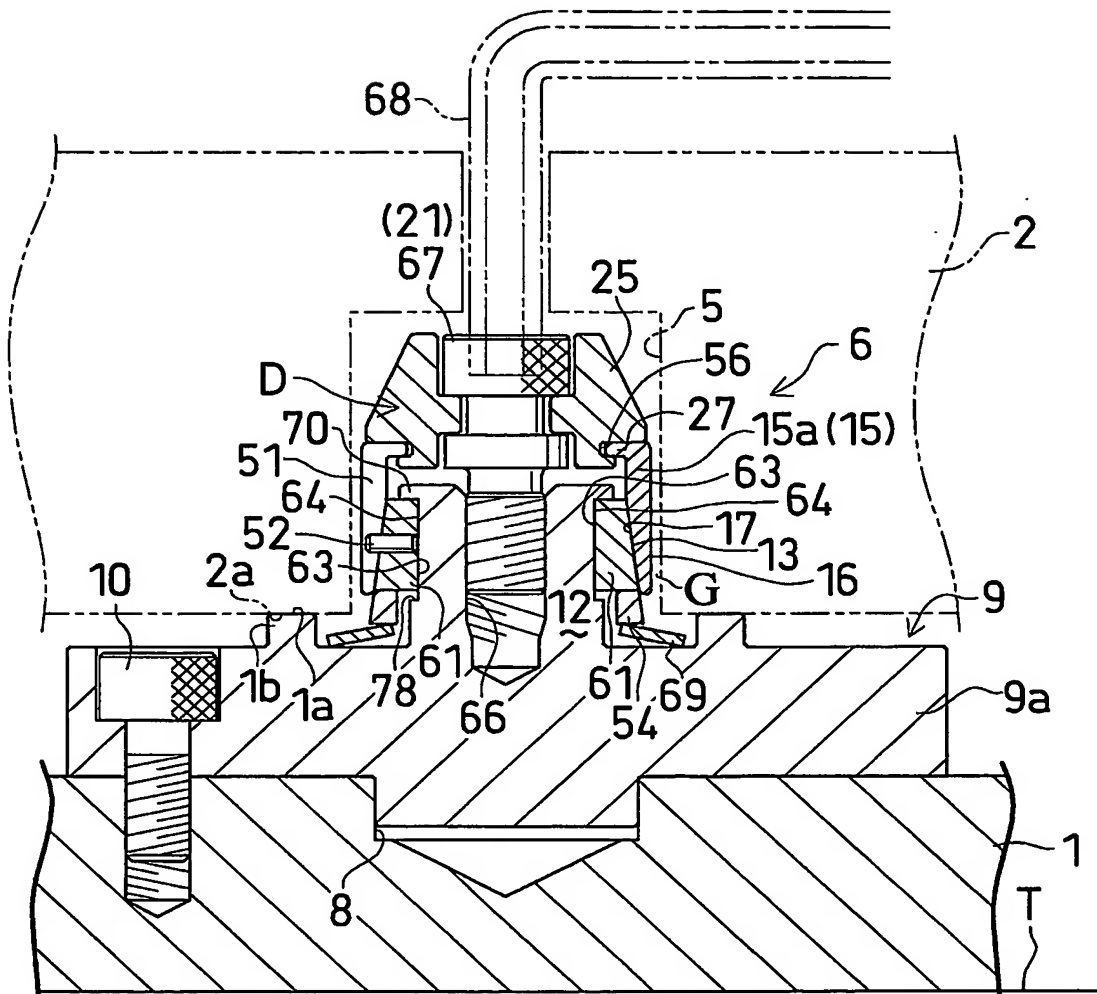


【図 13】

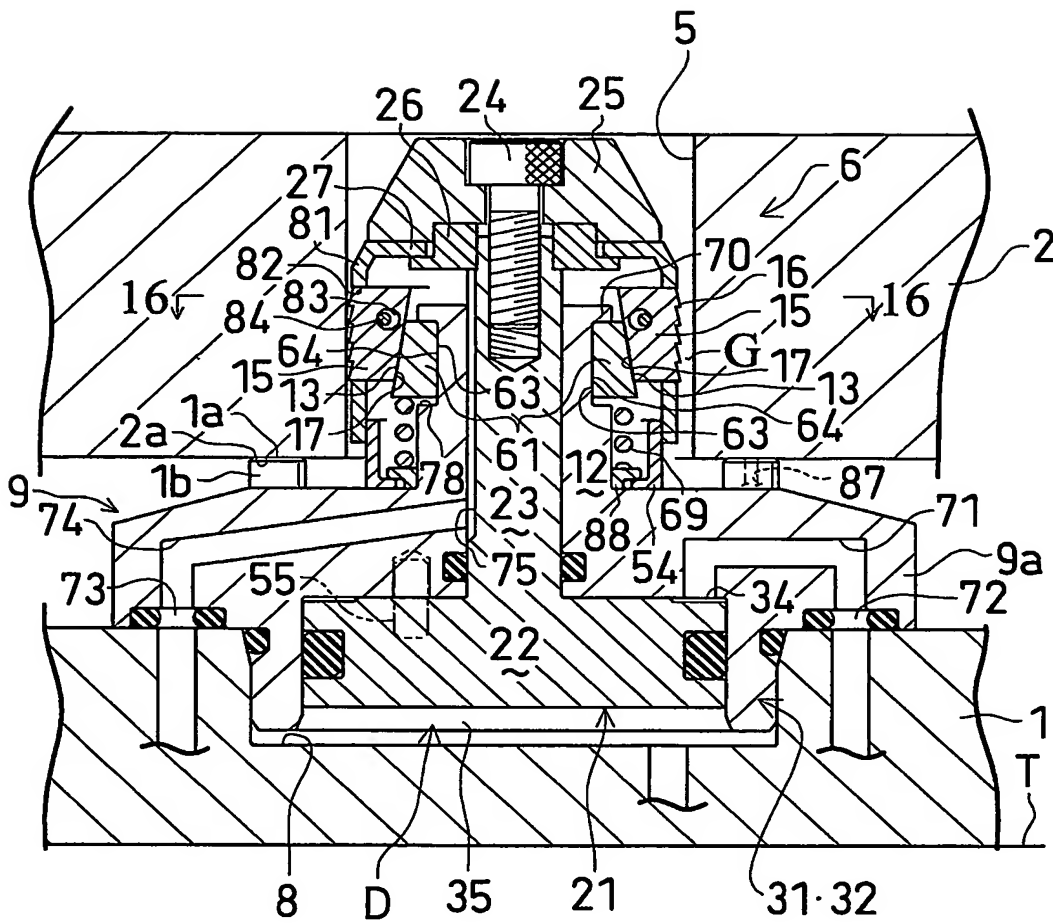




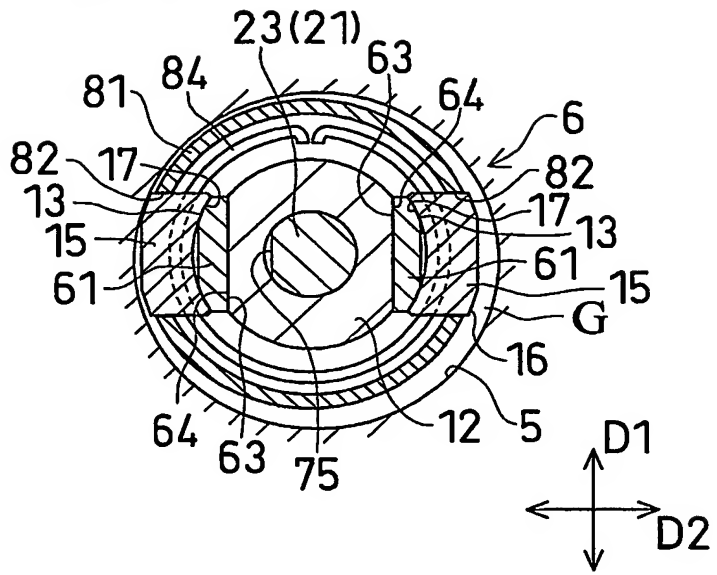
【圖 14】



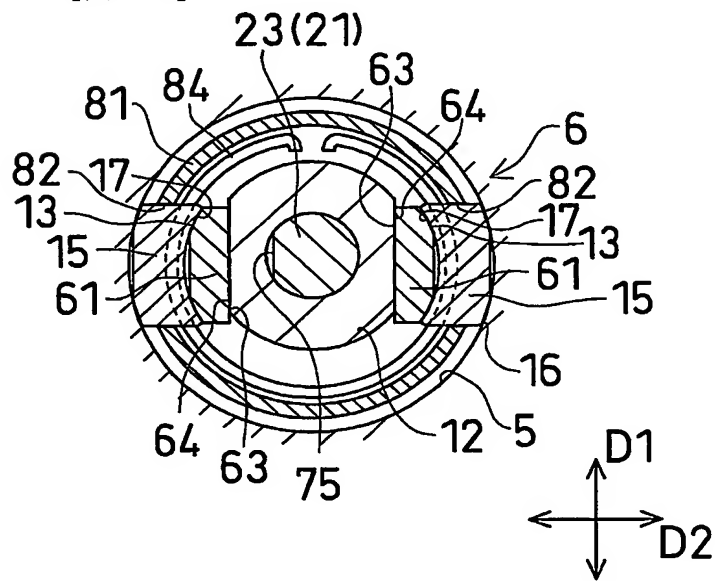
【図 15】



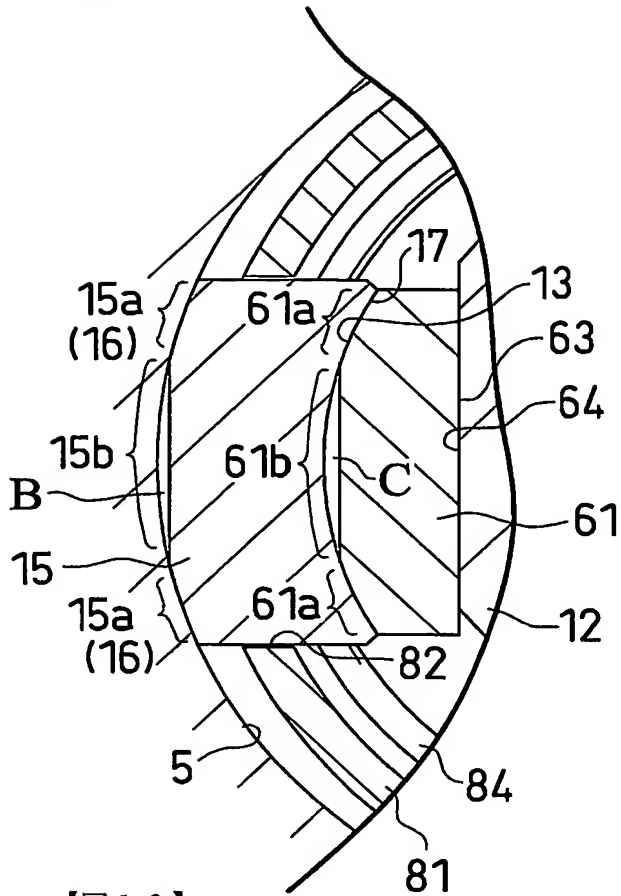
【図 16】



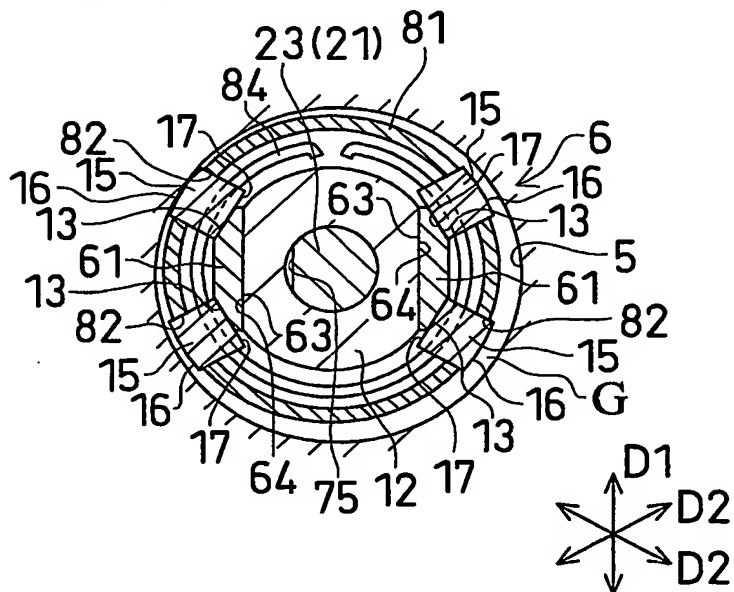
【圖 17】



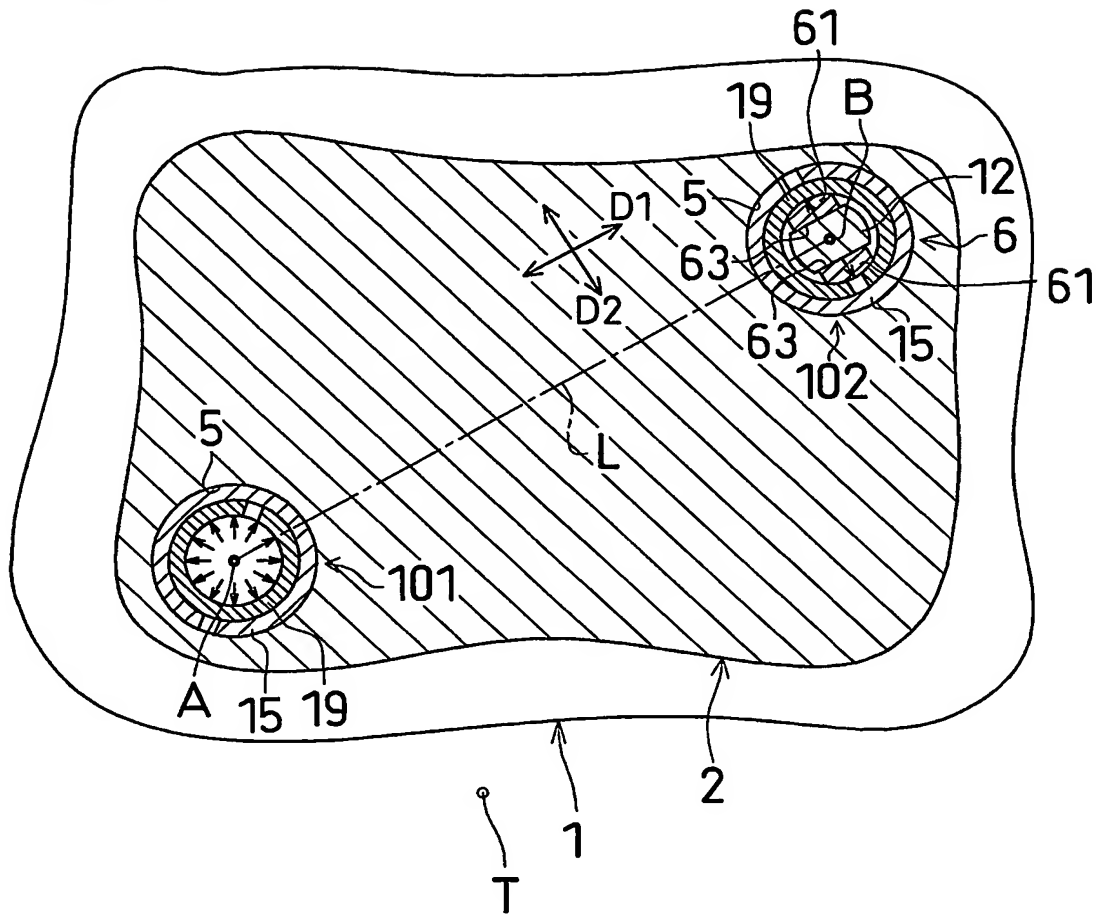
【图 18】



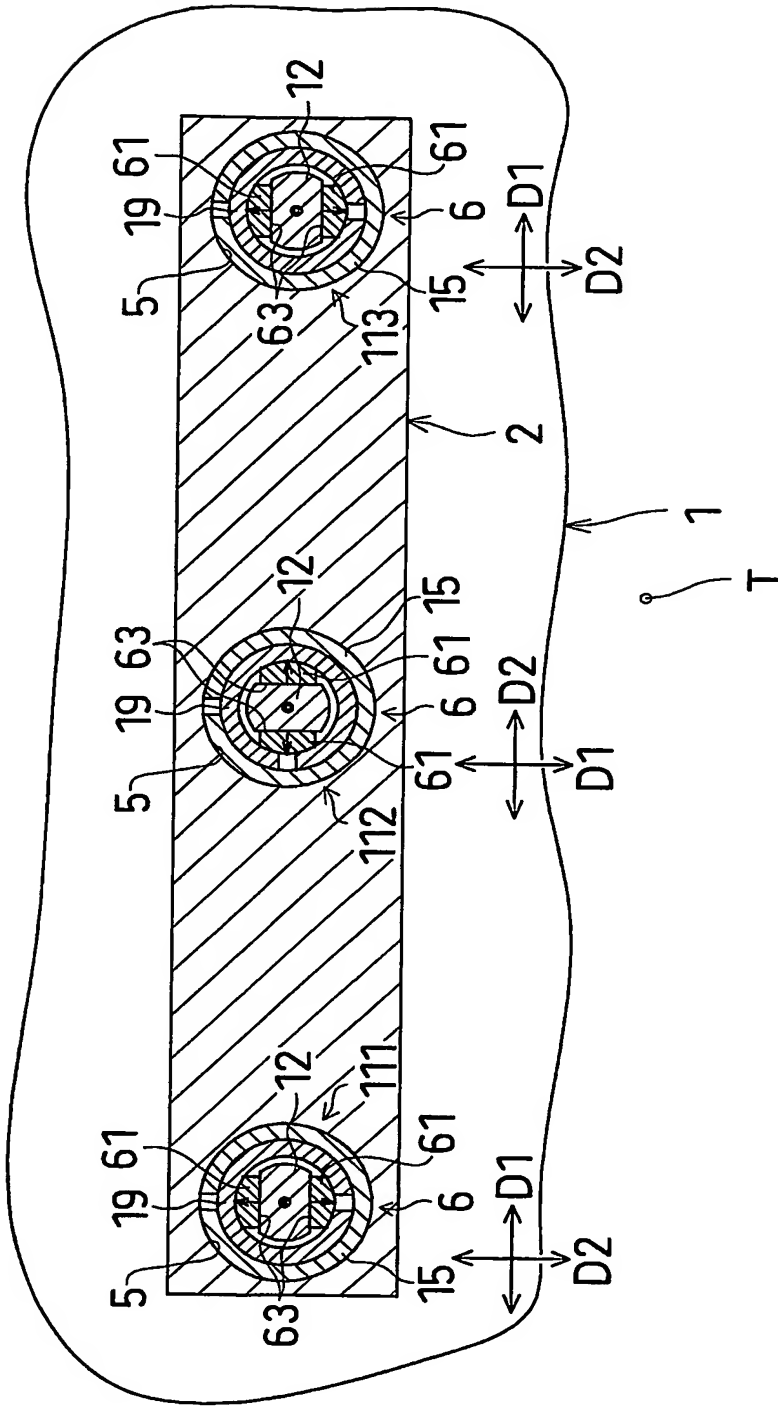
【図 19】



【図 20】



【図 21】





**【書類名】 要約書****【要約】**

**【課題】** 高精度かつ自動的に位置決めできる位置決め装置を提供する。

**【解決手段】** 第2ブロックに形成した位置決め孔5に挿入されるプラグ部材12を第1ブロックから突出させる。プラグ部材12を挟んで対面する複数のスライド部材61を、その対面方向にほぼ直交する第1径方向D1へ移動可能な状態でプラグ部材12に連結する。スライド部材61の外側に、第1押圧部材15及び第2押圧部材19を拡径及び縮径可能に且つ軸心方向に移動自在に配置する。駆動手段によって第1押圧部材15を基端方向へ駆動することによって、スライド部材61が前記の対面方向である第2径方向D2へ第1押圧部材15を拡径させ、これにより、プラグ部材12に対してスライド部材61を第1径方向D1へ移動させる。この移動後に、第2押圧部材19の基端方向への移動が阻止されることで、第1押圧部材15が位置決め孔5の内周面を第2径方向D2へ強力に押圧する。

**【選択図】** 図5



特願 2003-358728

出願人履歴情報

識別番号

[391003989]

1. 変更年月日

1990年12月18日

[変更理由]

新規登録

住所

兵庫県神戸市西区室谷2丁目1番2号

氏名

株式会社コスメック